

2021年度



アウトリーチプログラム 報告書



独立行政法人国立文化財機構
文化財活用センター
NATIONAL CENTER FOR THE PROMOTION OF CULTURAL PROPERTIES



東京国立博物館
TOKYO NATIONAL MUSEUM

目次

● ごあいさつ	1
● ぶんかつアウトリーチプログラム概要	1
● ぶんかつアウトリーチプログラムの申し込み方法・打ち合わせについて	2
● プログラムについて	
プログラム① 「自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」	4
プログラム② 「屏風体験！松林図屏風をプロデュース」	6
プログラム③ 「見て、感じて、楽しむ松林図屏風」	8
プログラム④ 「見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風」	10
プログラム⑤ 「絵で読む平家物語」	12
● 実施報告	
足立区立西保木間小学校	14
東京都立つばさ総合高等学校	16
板橋区立向原小学校	18
世田谷区立玉川中学校	20
葛飾区立川端小学校	22
聖ヨゼフ学園小学校	24
● 複製品とキットのみの貸し出し実績	
京都府立西城陽高等学校	26
平安女学院中学高等学校	26
福井市立郷土歴史博物館	26
京都府立福知山高等学校・附属中学校	27
● 教員研修、他 実施報告	
青森県総合学校教育センター	27
【実証実験】 オンラインツールを使用したアウトリーチプログラム 三重県立四日市高等学校	28
● 学校向け複製品のお貸出しについて	29
● おわりに	29

文化財活用センターについて

文化財活用センター〈ぶんかつ〉は、東京、京都、奈良、九州の4つの国立博物館や東京、奈良の文化財研究所など7つの施設を設置する独立行政法人国立文化財機構に、2018年7月に開設された組織です。あらゆる地域で、子どもから大人まですべての人びとが、日本の文化財に親しみ、身近に感じて、豊かな体験と学びを得ることができるよう、文化財の活用に関する新たな方法や機会の創出を目指し、情報基盤の整備やコンテンツの開発を行っています。

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9(東京国立博物館 東洋館5階)
TEL:03-5834-2856 FAX:03-5834-2857



WEBサイト



Twitter



Instagram



You Tube

東京国立博物館について

東京国立博物館(トーハク)は明治5年(1872)に生まれた、日本でもっとも歴史のある博物館で、日本とアジアの伝統文化に触れることができます。日本とアジアの絵画、彫刻、工芸、考古遺物などを常時3000~4000件展示しています。収蔵品の数は11万9000件以上、国宝89件、重要文化財644件を含む質・量ともに日本一を誇る博物館です。東京国立博物館教育普及室では、「スクールプログラム」として、小学校・中学校・高等学校のみなさんが学校の授業で博物館を見学するときに事前学習に使用できる動画の配信や、オンラインプログラムを実施しています。(問い合わせは休館日を除く平日10:00-17:00)

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
TEL:03-3822-1111(代) FAX:03-3822-3010(教育普及室)



トーハクWEBサイト



文化財活用センター〈ぶんかつ〉は、2018年7月、独立行政法人国立文化財機構に設置された組織です。長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで人の手から手へ受け渡されてきた文化財を、1000年先、2000年先の未来に受け継いでゆくために、文化財の保存と活用の両立に留意しながら、多くの人に文化財を通して豊かな体験と学びを得る機会を提供することを目指して、さまざまな活動を行っています。

「ぶんかつアウトリーチプログラム」は、文化財活用センターの発足と同時に開発をはじめ、2019年4月から開始した教育プログラムです。あらゆる地域で、子どもから大人まですべての人びとが、日本の文化財に親しみ、身近に感じることができるようにすることを目的とした事業のひとつで、コロナウイルス感染症による影響を受けながらも3年目を無事に終了しました。2021年度は23の機関でのプログラム実施を予定していましたが、11機関では中止となり、最終的に小学校、中学校、高等学校および教員研修や博物館のワークショップなど、12機関での実施・活用となりました。

本報告書には、受付方法などの詳細やプログラムの概要とともに、2021年度に講師派遣を行った機関における実施内容を掲載しています。文化財に親しむための活動を行うみなさま、鑑賞の授業を担当する先生方の一助となれば幸いです。

文化財活用センター・東京国立博物館

ぶんかつアウトリーチプログラム概要

「ぶんかつアウトリーチプログラム」は、文化財の高精細な複製品を使用した教育プログラムで、〈ぶんかつ〉とトーハクの教育普及室が共同で開発を行っています。肉眼では本物と見分けがつかぬほど精巧な複製品を使用し、国宝や重要文化財、海外の博物館が所蔵する名宝と向き合うことによって文化財に親しみ、自らに問いかけ、考える力を養い、自分たちの地域や身の回りにある、人の手から手へ受け継がれてきた文化財を守り受け継いでいく力を育むことを目的としています。全国各地の博物館・美術館や小学校・中学校・高等学校などの現場で活用いただくために、45分から90分の時間設定とし、通常教室やワークショップスペースなどで実施できるような構成にしており、一部のプログラムは基本原稿をWEBサイトで公開しています。多くの人々に文化財に親しむ機会を提供するため、原則としてプログラムに必要な複製品を含むキット一式は無料で貸出を行い、ご希望に応じて、〈ぶんかつ〉またはトーハクから講師の派遣も行います(プログラムの基本的な流れを理解いただいたうえで、利用者の目的に応じたアレンジも可能です)。

本プログラムは、主に児童・生徒を対象とし、博物館・美術館のワークショップや、学校の図画工作・美術・国語・古典などの授業での活用を想定していますが、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、図画工作・美術科の教員研修などでの活用も可能です。また、院内学級や病院での芸術鑑賞会などのイベント・特別支援学校・特別支援級や不登校教室からの申し込みも受け付けています。



実施方法

【A】複製品を含むキット貸出と講師派遣(事前打ち合わせ必須)

講師は文化財活用センターもしくは、東京国立博物館の職員が担当します。

【B】複製品を含むキットの貸出(メールもしくは電話による打ち合わせ必須)

実施館の学芸員のみなさまや学校の先生にプログラムを行っていただきます(講師派遣はありません)。予約完了後、実施ガイドと基本原稿、複製品の取り扱いマニュアルをメール添付もしくは郵送でお送りし、貸出開始日に複製品とキットをお届けします。

料金

原則として講師派遣費用、輸送費、保険を含め無料(ただし、キット一式に含まれない筆記用具、必要な画材についてはご利用者様でご用意いただきます)。

申し込み方法

事前申込制、年間10件程度(先着順)。毎年、2月中旬頃に翌年度の受付を開始しています。受付開始以降、実施希望日の2か月前までにお申し込みください。(すでに複製品の使用予定がある場合など、ご希望に添えず日程の調整をお願いすることやお断りする場合もございます。)

そのほか、よくある質問や問い合わせはぶんかつWEBサイトをご確認ください。

お申し込みの流れ

1. 申し込みフォームを送る

WEBサイトの「ぶんかつアウトリーチプログラム申し込みフォーム」に必要な事項を入力の上、送信してください。実施希望日の2か月前まで、フォームの受領順で受け付けます（お申し込み多数の場合は、上限に達し次第、WEBサイトでご案内します）。

ぶんかつWEBサイト

トップページ「教育プログラムを利用したい」
↓
「ぶんかつアウトリーチプログラム」へアクセス



ぶんかつアウトリーチプログラム WEBサイト



WEBフォームでのお申し込みができない場合は、WEBサイト「ぶんかつアウトリーチプログラムQ&A」のページにあるFAX用紙でお申し込みください。

2. 実施可否のご案内

実施の可否について、文化財活用センターから10日以内にまずは電話でご連絡いたします。

3. 予約証が届く

【予約完了】 実施可能な場合は、「ぶんかつアウトリーチプログラム予約証」をメールまたはFAXにてお送りします。予約証を受け取った時点で予約が完了します。内容を確認いただき、齟齬がありましたら、すぐに連絡をお願いいたします。

※予約完了後の日程変更はできません。また、2. 実施可否のご案内後、3日以内に届かない場合も連絡をお願いいたします。

4. 事前打ち合わせ

(3ページ参照)

【A】講師派遣の場合は必須 実施予定日の2週間以上前までに、学習内容、当日の流れについて打ち合わせを行います（講師が実施機関に伺います。訪問日程が調整できない場合や遠方の場合は、電話・メールなどでの打ち合わせとなります）。利用の目的などを詳細にお知らせください。

【B】複製品を含むキットの貸出 訪問・電話・メールなどで打ち合わせを行います。ご希望があれば、実施機関に伺っての打ち合わせも可能です。ご希望の方法を、お申し込み時にお知らせください。

※メールなどが利用できない機関の場合は、FAXでのやりとりも可能です。

5. 使用キットが届く

複製品およびキット一式を送料元払い（または専用車両）にてお届けします。到着後は、必ず内容物一式の状態をご確認ください。

※**【B】複製品を含むキットの貸出** をお申し込みの方は、複製品と一緒に送付する「複製品およびキット借用書」を、同封する返信用封筒にてご返送ください。

6. プログラムの実施

【A】講師派遣の場合 文化財活用センター・東京国立博物館の職員が現地に出張し、プログラムを実施します。

【B】複製品を含むキットの貸出 学校の先生や実施館の学芸員など、利用者ご自身にてプログラムを行ないます。

7. 使用キットを返却する

ご利用後は発送時に使用した資材で梱包し、利用期間内に送料着払い（または当方手配の専用車両）でご返送ください。※今後のプログラムに活かすために、利用者アンケートを用意しています。ご意見、ご感想をお聞かせください。

複製品（屏風）とキットの輸送について

複製品（屏風）とキットの輸送は、原則としてプログラム実施日前に送り、後日返却としています。受け取りと返却は実施機関で対応いただきます。実施機関到着時は昇降口などで引き渡しとなり、そこからは実施機関の職員・先生に運んでいただきますので、運搬用の台車もお送りしています。

使用する複製品はパネルが6枚つなげた屏風ひとつで15～20kg程度、コンテナは5kg程度ですので、受け取り、返却引き渡しの際は2名以上での対応を利用機関にお願いしています。

プログラムに使用する屏風とキットの輸送は美術品の梱包・取り扱い・輸送のプロフェッショナルであるNX日本通運関東美術品支店に依頼しています。輸送を担当するスタッフは本物の文化財を取り扱う美術品作業員（梱包・輸送スタッフ）です。文化財の素材・大きさ・重量・状態などを確認し、研究員（学芸員）の点検作業の補助を行い、ひとつひとつの文化財に合わせた輸送用の箱や資材などを作って準備し、梱包を行い、振動や空調に細かく配慮した輸送手段で運びます。輸送先では開梱の上、点検作業の補助を行い、展示して固定します。このような作業を経て、お客様に見ていただく状態を作り上げています。人の手から手へ受け継がれてきた文化財を、100年先、1000年先の未来へ残してゆくための、文化財にかかわる人の手のひとつです。アウトリーチプログラムで使用する屏風は複製品ではありますが、そのようなプロフェッショナルの手で輸送しています。

事前打ち合わせの流れ

実施機関で打ち合わせの場合

1. 日時の決定・確認

予約時に事前打ち合わせの日時を決定します。事前打ち合わせについては日時の変更が可能ですので、都合が悪くなったなどの場合は利用機関のご都合に合わせて調整しています。

2. 事前打ち合わせ実施まで

打ち合わせ1週間ほど前から前日までに、打ち合わせ日時確認の連絡をいたします(それまでの間に、不明な点や不安な内容があった場合も、随時連絡を受け付けています)。

3. 事前打ち合わせ

(1時間程度)

当日にプログラムを担当する講師が、実施する場所もしくは利用機関へ伺います。①実施場所、②保管場所、③搬出入場所(車両駐車スペース)について現場の確認を行います(写真撮影含む)。また、①基本原稿、②キットリスト、③アンケートと一緒に確認いただき、実施する内容と当日の進行について確認を行います。ご利用の目的に応じたアレンジをご希望の場合は、打ち合わせ時に調整を行います。資料は一式を当センターで用意して人数分お持ちしますので、利用者の準備は不要です。

4. 打ち合わせ内容の送付

(3.の翌日以降)

3.の打ち合わせの内容をまとめたものを、打ち合わせ翌日以降に利用者へ送付します。お互いの理解内容に齟齬がないかを確認します。また、打ち合わせ時の内容から変更することも可能ですが、希望される場合は早めの連絡をお願いしています。

電話・メールまたはFAXによる打ち合わせの場合

1. 予約完了後

予約完了後の早い段階で、担当者より①実施ガイド(【A】講師派遣ありの場合、【B】講師派遣なしの場合いずれも)、②屏風の取り扱いマニュアル(【B】の場合のみ)、③基本原稿、④キットリスト、⑤アンケート、⑥その他サンプルなどを送付します。メールでのやりとりが可能な場合はデータを送付し、難しい場合は出力したものを郵送で送付しています。

2. 実施1か月前まで

【A】講師派遣の場合 実施場所・搬入場所の写真を文化財活用センターの担当者宛にお送りいただきます。また、当日の流れ・プログラムの内容について、メールなどで打ち合わせを行ないます(Teamsであればオンラインによる打ち合わせも可能です)。

【B】複製品を含むキットの貸出 搬入場所の写真を文化財活用センターの担当者宛にお送りいただきます。また、基本原稿以外のプログラム案などで実施する場合のご相談は、実施日の1か月前までをお願いしています。ご不明な点等は随時ご相談を受け付けています。

事前打ち合わせについて

文化財活用センターから利用機関へ往訪する事前打ち合わせでは、実施場所などの確認とともに申し込みの目的に対応できる内容とするため、1時間程度の時間をかけてプログラムの流れを含む確認を行ないます。往訪による打ち合わせは原則1回としていますが、【A】講師派遣の場合は、利用者とのやり取り、事前打ち合わせから当日までの流れを、授業当日に講師を担当する研究員を中心に進めるため、問題なく進めることができます。利用機関によっては、利用者が作成したプログラム(授業)案の講師派遣による実施を希望することもあり、なるべく要望にお応えできるように調整を行なっています。事前打ち合わせでは情報共有の齟齬が無いよう、文化財活用センター側は講師を含む原則2名で打ち合わせに行きます。実施機関での打ち合わせのほかに、メールや電話・FAXで平均して2~3回程度のやり取りを行ないます。

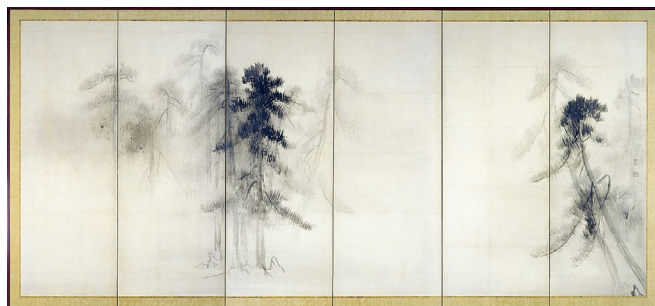
一方で【B】複製品を含むキットの貸出(講師派遣なし)の場合並びに、【A】講師派遣で遠方の場合、事前打ち合わせを含むすべての調整をメールまたは電話にて実施しています。オンラインをご希望の場合は、Microsoft Teamsを使用、利用機関で会議設定をしていただける場合はG Suit(Google Meet)、Zoomなどでも対応しています。多い場合でやり取りが8回ほどに及ぶこともありますが、①事務的な内容(輸送日時・搬入口・実施場所確認など)②プログラムについて(2回程度)の最低3回程度、やり取りを行なっています。【B】複製品を含むキットの貸出(講師派遣なし)について、本プログラム開始当初は打ち合わせなしとしていましたが、2021年度より必須としています(経緯は2020年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書に記載)。しかしながら利用機関の業務量が過多の場合が多く、打ち合わせのやり取りが成立せず、かつ授業案を全くいただけないケースがあるのも事実です。これは現在の利用機関の現状を鑑みると致し方ないことである一方で、開発側が意図する目的から大きく外れる利用方法になりかねないため、2022年度も引き続き対策を検討しています。

1

プログラム

自分だけの松林図屏風をつくってみよう!

使用する複製品 は せ が わ と う は く 長谷川等伯筆 こ く ほ う し ょ う り ん づ び ょ う ぶ 国宝《松林図屏風》の高精細複製品★(東京国立博物館所蔵)



プログラムのねらい

〈トーハク〉が所蔵する国宝《松林図屏風》の複製品を使用した、制作で表現するプログラムです。博物館ではガラスケース越しでないと鑑賞できない屏風ですが、自分と同じ高さの床に置いた屏風に近づいて見ることができます。色やかたち、配置に注目してじっくり見たあとは、屏風型のワークシートに松を描いたり、配置を工夫しながら松の木のスタンプを押したりと、自分だけの松林図屏風を自由につくりまわす。ものづくりを通して文化財を身近に感じることを目的としています。

参加対象 小学校低学年以上

参加人数 最大人数40名(学校の場合は1クラスずつの実施を推奨)

実施時間 45～50分 ※60分や90分など時間を延長して実施することも可能。45分未満の短縮は不可。

学校で実施する場合の使用可能科目 図画工作、美術、総合的な学習の時間など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース(横7メートル×奥行3メートル程度)があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。

キット一覧	内 容	梱包の形態	梱包の数量
基本セット	屏風 6曲1双	185×95×20cm 程度のプラスチック段ボール箱	2個
	ござ 6畳×2枚	80×60×10cm 程度の袋	1包
	屏風用照明	65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	ミニチュア屏風(持ち帰り用)・アンケート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
	ワークシート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
	スタンプセット	37×53×35cm 程度の折りたたみコンテナ	3個
追加機材等 (投影機器等)	スクリーン	170×20×20cm 程度の段ボール箱	1個
	PC・プロジェクターなど	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨

※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし。または、パネルで対応

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか

開発の経緯と運用

このプログラムは、〈トーハク〉で2017年に開催した体験型展示「びょうぶとあそぶ」で実施したワークショップ「スタンプでつくる松林図屏風」を、学校向けに再構成したものです。博物館では原則として作品展示に合わせて教育プログラムを実施しますが、展示制限のない複製品を活用したプログラムなので、通年での実施が可能となりました。

余白を生かした原本の魅力を感じながら、自分なりの画面構成を行うことがテーマで、学校向けの構成としては前半で松林図屏風の複製品を鑑賞し、季節や時間、その周りに広がる風景、音や香りなどを想像してもらい、後半で感じたことを画面(ワークシート)に構成して形にできるように進めます。後半の制作で使用するワークシートは、松林図屏風に描かれている一部の松と山のみを残して背景だけを印刷しています。スタンプは作品の画像をもとにして制作した5種類の松のスタンプを利用し、それらを自由に押し当てオリジナルの松林図屏風をつくります。基本セットのみで実施する場合は、スタンプと黒いインクのみを使用して表現するため、創作活動や言葉で表現することが苦手な子どもでも取り組むことができます。また、出来上がった松林図屏風と持ち帰りキットの松林図屏風は同じサイズにしてあるため、4枚を並べて楽しむ、自分が作った右側と松林図屏風の左側をペアにして飾るなど、色々な置き方を楽しめるようにしています。

本プログラムは制作キットの準備などに人数がいることが望ましいため、講師派遣ありの場合は、講師のほかには必ず1～3名でサポートができる体制で運用しています。キットの準備に約1時間、実施前の会場での準備に約20分、現場での撤収片付けに約20分、戻ってきたキットのメンテナンス・片づけに約1時間を要します(利用者側の運用にかかる詳細はWEBサイトで公開している実施ガイドをご確認ください)。

1. ごあいさつから導入




時間配分	内容	詳細
5分	ごあいさつとテーマ	講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は『自分だけのびょうぶをつくらう!』というテーマで行います。」
	することの説明	プログラムの流れを説明します(話を聞く→じっくり見る→作る→まどめ)
	屏風を知る	屏風全体が見えるように座ったところからスタート 参加者に問いかけながら解説を行います。複製品であることもここできちんと伝えます。 「みなさんの目の前にある絵は日本で有名な作品のひとつです」 「みなさんに近くでよく見てもらえるように、本物そっくりに作られた複製品・レプリカを持ってきました」 「この絵の形は屏風といいます。みなさん屏風って知っていますか?見たことはありますか?」 「屏風は、昔の人がおうちでつかっていたもので、折り曲げて床に置き、ついたてや、パーティションのように、移動のできる壁として、部屋を仕切ったり、風よけや目かくしなどに使われました」

2. 鑑賞

時間配分	内容	詳細
12分	描かれているものを見る	全体を見る まずは遠くから全体を見てもらい、目に入ってきたものを聞いていきます。 「それでは、描かれているものを見ていきましょう」 「何が描かれていると思いますか?」 回答:木、山、など 屏風に近づく 屏風に近づいて、描かれているものを細かく見ます。 「何の木に見えましたか?」 回答:杉、松、モミの木、など 「実はこれは松の木です。みんな松の木は見たことあるかな?」 「そのほかには何か見えましたか?」 回答:空気、大気、霧など
	配置に注目する	実際の松林の写真を見せる 写生ではないことを感じてもらうための質問です。 「写真のような風景は見たことありますか?」 「写真の松林と比べて、同じところや違うところはあるか?」 回答:色が無い、松の本数が少ない、何も描かれてないところがある、など
	色に注目する	墨一色で描かれていることを伝えるための質問です。 「何色が使われていますか?」 回答:黒、灰色、白、茶色など 「墨の表現(太い線や細い線、筆の向きなど)はどうですか?」
	描かれている風景に入り込む	参加者が想像をはたらかせ屏風に描かれている風景に入り込めるような質問をします。 「季節はいつ頃だと思いますか?」 回答:春、夏、秋、冬など 「何時ごろの風景だと思いますか?」 回答:朝、夜明け、夕方、夜など 「どんな音が聞こえてきそうですか?」 回答:自分の足音、風の音など なぜそう思ったのか続けて質問し、参加者全員へ共有します。
2分	松林図屏風について知る	作業机の席に戻る 松林図屏風について簡単に解説します。

3. 制作

スタンプを使用した制作が基本。墨で描きたい、モノクロームではなく色をつけたいなど利用者の目的に応じたアレンジも可能。その場合に必要な画材は利用者で用意。

時間配分	内容	詳細
15分	作り方の説明	自分だけの松林図屏風をつくります。使用する画材の説明を行います。 「ここからは皆さんに屏風の作者になってもらいます」 制作中は参加者が作った作品を見てまわり、声掛けも行います。 ※ 時間内に制作が終わらない場合は、スタンプを数セット延長して貸し出すこともできます。(伝票をお持ちしますので、使用後は着払いにてご返送ください。)  5種類の松のスタンプ (10セットあります)  ワークシート左  ワークシート右 ○使用するスタンプ、ワークシート
2分	ワークシートを折って屏風をたてる	博物館から持ってきた屏風と同じ置き方になるように、折り方を解説します。

4. まとめ

時間配分	内容	詳細
5分	まとめ 終わりのごあいさつ	頑張ったところや工夫したところを聞き、プログラムのまとめをして終了です。

※利用者の目的に応じたアレンジが可能。

配布する持ち帰りキット

参加者ひとりにつき1セット配布。
講師派遣あり・なし、いずれの場合もお渡しします。



ミニチュア屏風左



ミニチュア屏風右



高精細複製品のパンフレット

文化財活用センターWEBサイトで以下の情報を公開しています(ダウンロード可能です)。

プログラム①
1.実施ガイド
講師派遣なし | 先生・講師用

プログラム①
2.複製品・キットリスト

プログラム①
3.スクリプト・原稿案:45分
先生・講師用

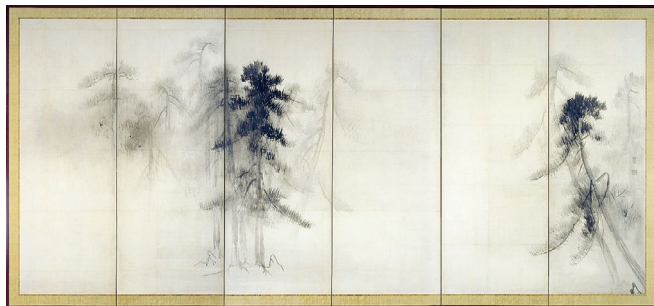
プログラム①
4.スクリプト・原稿案:90分
先生・講師用

2

プログラム

屏風体験！松林図屏風をプロデュース

使用する複製品 は せ がわとうはく 長谷川等伯筆 こくほう しょうりんずびょうぶ 国宝《松林図屏風》の高精細複製品★(東京国立博物館所蔵)



プログラムのねらい

〈トーハク〉が所蔵する国宝《松林図屏風》の複製を使用したグループワーク形式のプログラムです。はじめに屏風に近づいて鑑賞し、作品の特徴を見つけます。松林図屏風の世界をより身近に感じられる置き方や、魅力を引き出す置き方をグループで話し合い、提案してもらいます。屏風の見せ方を考える体験を通して、文化財に親しむことを目的としています。

参加対象 小学校4年生以上

参加人数 最大40名(学校の場合は1クラスずつの実施を推奨)

実施時間 90分 ※時間を延長して実施することも可能、ただし50分未満の短縮は不可。

学校で実施する場合の使用可能科目 図画工作、美術、総合的な学習の時間など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース(横7メートル×奥行7メートル程度)があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。部屋を暗くできる場合は、照明による演出も可能。

キット一覧	内 容	梱包の形態	梱包の数量
基本セット	屏風 6曲1双	185×95×20cm 程度のプラスチック段ボール箱	2個
	ござ 6畳×2枚	80×60×10cm 程度の袋	1包
	屏風用照明	65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	グループワーク用ミニ屏風	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
	グループワーク用ワークシート(図画)	63×20×20cm 程度の段ボール	1個
	ミニチュア屏風(持ち帰り用)・アンケート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
追加機材等 (投影機器等)	スクリーン	170×20×20cm 程度の段ボール箱	1個
	PC・プロジェクターなど	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨

※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし。または、パネルで対応

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか

開発の経緯と運用

このプログラムは、〈トーハク〉で不定期に行っているワークショップ「屏風体験!」を、学校で実施できるようにアレンジしたものです。「屏風体験!」は本プログラムと同じく複製屏風を使用したワークショップです。日常の道具として暮らしの中で使われていた屏風本来の姿を体感してもらい、光の演出によって屏風の魅力を感じてもらうことを目的としています。博物館のワークショップは約2時間で構成されており、展示室で本物の屏風の鑑賞と屏風の説明を聞き、お茶室へ移動して前半は「屏風の置き方」をテーマに、後半は「明かりが変わると屏風はどう見えるか」をテーマに行われたものでした。アウトリーチプログラムの当初の案では、小学校の授業に合わせて45分に収まる様に作りませんが、全員(全グループ)に発表してもらうためにはやはり90分は必要だったため、基本の時間を90分とした経緯があります。


鑑賞で気づいたことや感じたことなどをアウトプットする方法のひとつとして、「置き方を考える」という手法を取り入れたものですが、アウトリーチプログラムとしては2019年の初回で実施したのみとなりました。要因は主に3つあると考えられ、①博物館ユーザーを対象としたレベルのプログラムを、初めて鑑賞を行なうような学校で展開することが難しかったこと、②屏風には調度品としての機能があるという知識が利用者側に少なく、プログラムの内容を想像することが難しいこと、③授業で使用する場合の参加者評価を行う(成績をつける)際に、評価基準を定めることが難しいこと、以上により申込に躊躇されるケースが多かったと考えられ、2022年度以降は本プログラムの実施を取りやめることとしました。

プログラムの内容(基本的な流れ)


1. ごあいさつ

時間配分	内容	詳細
5分	ごあいさつとテーマ	<p>〔屏風全体が見えるように座ったところからスタート〕</p> <p>講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は『屏風体験!松林図屏風をプロデュース』というテーマで行います」</p>
	することの説明	プログラムの流れを説明します(話を聞く→じっくり見る→すごいところや特長を見つける→グループワーク→まとめ) 松林図屏風という作品名と、複製品であることをここできちんと伝えます。

2. 鑑賞

時間配分	内容	詳細
8分	屏風をひろげる	<p>講師が参加者の目の前で屏風をひろげていきます。 ご希望に応じて屏風照明2種類と自然光(もしくは通常の蛍光灯)の合計3種類の光でお見せします。</p> 
3分	屏風を知る	<p>「屏風は、昔の人がおうちでつかっていたもので、折り曲げて床に置き、ついたてや、パーティションのように、移動のできる壁として、部屋を仕切ったり、風よけや目かくしなどに使われました」 「この松林図屏風は反対側にも折れるつくりで、ジグザグにしたり、四角く置いたり、さまざまな置き方ができます」</p>
20分	描かれている松林について	<p>〔実際の松林の写真を見せる〕</p> <p>描かれている松林と写真の松林を座った位置で比較します。 写生ではないことを感じてもらうための質問です。 「写真のような風景は見たことがありますか?」</p>
	写真と比較しながら描かれているものを見る	<p>〔屏風に近づく〕</p> <p>「写真の松林と比べて、松林の同じところや違うところがありますか?」「松の本数は?」「地面と空の境目はどこだろう?」「色の違いは?」</p>
	描かれている風景に入り込む	<p>参加者が想像力を働かせ屏風に描かれている風景に、入り込めるような質問をします。 「どんな音が聞こえてきそうですか?」「天気や気温はどれくらいだと思いますか?」「季節はいつ頃だと思いますか?」「何時ごろの風景だと思いますか?」 なぜそう思ったのか続けて質問し、参加者全員へ共有します。</p>
2分	鑑賞のまとめ	<p>〔グループワークを行う位置へ移動して座る〕</p> <p>「何も描かれていない空間に何があるのかな、と想像して楽しむことができます」 「墨の濃淡を使っているいろいろな色を表しているの、いろいろな時間や季節を想像しながら楽しむことができます」 など、参加者の意見をもとにまとめます。</p>

3. 個人ワーク、グループワーク

時間配分	内容	詳細
5分	課題説明	<p>グループワークの課題説明を行います。 「ここからは見てきたことを形にするグループワークです」</p> <p>○使用するワークシート、図面、ミニ屏風</p> <p>松林図屏風のすごいところや特長を、初めて見る人に楽しんでもらうための置き方を考えてもらいます。 ワークシート、図面、ミニ屏風の使い方、グループワークの進め方を説明します。 ※屏風の置き方を考える場所(教室など)は打ち合わせ時に相談して決定します。</p> 
5分	自分の意見を書く	松林図屏風のすごいところや特長を自分で3つ考えて、ワークシートに書きます。
15分	みんなの意見をまとめて置き方を考える	各自で考えた特長をグループで共有し、みんなの意見として3つにまとめます。そのあと、松林図屏風の3つの特長をはじめて見る人に楽しんでもらうための置き方をグループで考え、その置き方にタイトルを付けます。

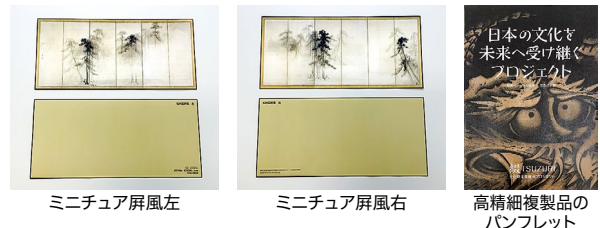
4. 発表～まとめ

時間配分	内容	詳細
10分	発表	グループで決めた置き方を発表します。
10分	複製の置き方を変えて実際に体験する	発表された置き方からひとつ選び、実際に複製をその形に置いて鑑賞します。または、左右の屏風を平行に向い合せて置いて、参加者に松林図屏風の間を歩いてもらいます。
5分	まとめ 終わりのごあいさつ	実際に置いてみた感想を聞いてまとめ、見せ方について解説をして終了します。

※最後のまとめ方はお申し込みの目的に応じて、アレンジが可能。

配布する持ち帰りキット

参加者ひとりにつき1セット配布。
講師派遣あり・なし、いずれの場合もお渡しします。



ミニチュア屏風左

ミニチュア屏風右

高精細複製品のパンフレット

3

プログラム

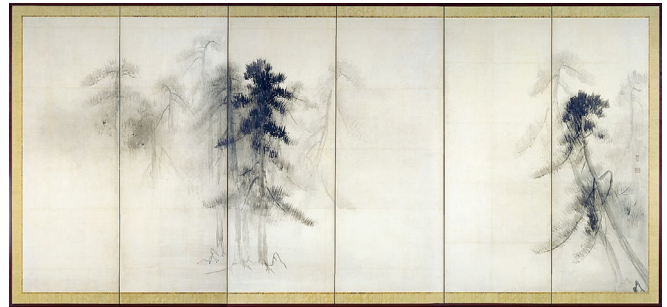
見て、感じて、楽しむ松林図屏風

使用する複製品

はせがわとうはく
長谷川等伯筆

こくほう しょうりんずびょうぶ

国宝《松林図屏風》の高精細複製品★(東京国立博物館所蔵)



プログラムのねらい

〈トーハク〉が所蔵する国宝《松林図屏風》の複製を使用した対話形式のプログラムです。講師が屏風を取り扱い、ひろげて見せるところから始めます。照明による見え方の違いを感じた後、自分と同じ高さの床に置いた屏風に近づき、作品や描かれているものなどについて見て、感じて、楽しみます。じっくりと見て感じたことをお互いに言葉にすることを通じて、文化財に親しみ、多様な見方を受け入れることを目的としています。

参加対象 小学校3年生以上

参加人数 最大人数40名(学校の場合は1クラスずつの実施を推奨)

実施時間 45～50分

学校で実施する場合の使用可能科目 図画工作、美術、総合的な学習の時間など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース(横7メートル×奥行3メートル程度)があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。部屋を暗くできる場合は、照明による演出も可能。

キット一覧	内容	梱包の形態	梱包の数量
基本セット	屏風 6曲1双	185×95×20cm 程度のプラスチック段ボール箱	2個
	ござ 6畳×2枚	80×60×10cm 程度の袋	1包
	屏風用照明	65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	ミニチュア屏風(持ち帰り用)・アンケート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
追加機材等 (投影機器等)	スクリーン	170×20×20cm 程度の段ボール箱	1個
	PC・プロジェクターなど	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨

※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし。または、パネルで対応

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか

開発の経緯と運用

「見て、感じて、楽しむ松林図屏風」は2020年度から開始したプログラムのひとつです。小学校における図画工作の授業は、学校によって1時間と2時間の場合がありますが、初年度に「松林図屏風」をテーマに鑑賞と制作、またはグループワークを組み合わせたプログラム(プログラム①、②)を実施した結果、45分間を松林図屏風の鑑賞のみで構成することが可能と判断しました。そこで、1時間の授業にも対応出来る、松林図屏風をじっくり見るプログラムを開発しました。2時間続けて実施することが難しい機関から、多くの申し込みをいただいています。


本プログラムはワークシートなどを一切使用せず、その場で参加者がじっくりと見て感じたことをお互いに言葉に出して共有していく方法論を用います。新型コロナウイルス感染症の状況下ではワークシートを導入せざるを得ない事もありましたが、学校における対策が変更となった現在は、ワークシートは使用せずに高精細複製品と向き合って鑑賞を行なっています。既存のプログラムとは異なり、プログラム①②の前半部分をそのまま抜き出した形で、利用機関の目的に応じてまとめをアレンジしながら実施しています。

本プログラムは講師1名でも実施可能な構成にしていますが、屏風の重量があるため、屏風を取り扱う際には1名サポートがいる体制での運用が望ましいと考えています。キットの準備に30分、実施前の会場での準備に約10分、現場での撤収片付けに約20分、戻ってきたキットのメンテナンス・片づけに30分程度を要します(利用者側の運用にかかる詳細はWEBサイトで公開している実施ガイドをご確認ください)。

1. ごあいさつから導入

時間配分	内容	詳細
5分	ごあいさつとテーマ	講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は『見て、知って、楽しむ日本の美術』というテーマで行います。」
	することの説明	プログラムの流れを説明します(話を聞く→じっくり見る→まとめ)

2. 解説

時間配分	内容	詳細
8分	屏風をひろげる	<p>屏風全体が見えるように座ったところからスタート</p> <p>講師が参加者の目の前で屏風をひろげていきます。 ご希望に応じて屏風照明2種類と自然光(もしくは蛍光灯)の合計3種類の光でお見せします。</p> 
	屏風を知る	<p>参加者に問いかけながら解説を行います。複製品であることもここできちんと伝えます。</p> <p>「みなさんの目の前にある絵は日本で有名な作品のひとつです」 「みなさんに近くでよく見てもらえるように、本物そっくりに作られた複製品・レプリカを持ってきました」 「この絵の形は屏風といいます。みなさん屏風って知っていますか?見たことはありますか?」 「屏風は、昔の人がおうちでつかっていたもので、折り曲げて床に置き、ついたてや、パーテーションのように、移動のできる壁として、部屋を仕切ったり、風よけや目かくしなどに使われました」</p>
5分	作品の第一印象を共有する	<p>作品から受けた印象を声に出してもらい皆で共有していきます。</p> <p>「第一印象は?見てどんな感じがしましたか?」 「何が書いてあるように見えますか?」 「この絵の中で、何が起こっているのでしょうか?」 「どんな音が聞こえてきそうですか?」 「どんな匂いがしそうですか?」</p>

3. 鑑賞

時間配分	内容	詳細
17分	描かれているものを見る	<p>全体を見る</p> <p>まずは遠くから全体を見てもらい、描かれているものや目に入ってきたものを聞いていきます。</p> <p>「それでは、描かれているものを見ていきましょう」 「何が描かれていると思いますか?」 回答:木、山、など</p> <p>屏風に近づく</p> <p>屏風に近づいて、描かれているものを細かく見ます。</p> <p>「何の木に見えましたか?」 回答:杉、松、モミの木、など 「実はこれは松の木です。みんな松の木は見たことあるかな?」 「そのほかには何か見えましたか?」 回答:空気、大気、霧など</p>
	配置に注目する	<p>実際の松林の写真を見せる</p> <p>写生ではないことを感じてもらうための質問です。</p> <p>「写真のような風景は見たことありますか?」 「写真と比べて、松林の同じところや違うところはあるですか?」 回答:色が無い、松の本数が少ない、何も描かれてないところがある、など</p>
	色に注目する	<p>墨一色で描かれていることを伝えるための質問です。</p> <p>「何色が使われていますか?」回答:黒、灰色、白、茶色など 「墨の表現(太い線や細い線、筆の向きなど)はどうですか?」</p>
	描かれている風景に入り込む	<p>屏風に描かれている風景に、参加者自らが入り込める質問をします。</p> <p>「季節はいつ頃だと思いますか?」 回答:春、夏、秋、冬など 「何時ごろの風景だと思いますか?」 回答:朝、夜明け、夕方、夜など 「どんな音が聞こえてきそうですか?」 回答:自分の足音、風の音など なぜそう思ったのか続けて質問し、参加者全員へ共有します。</p>
2分	松林図屏風について知る	<p>席に戻る</p> <p>松林図屏風について簡単に解説します。</p>

4. まとめ

時間配分	内容	詳細
5分	まとめ 終わりのごあいさつ	利用者の申し込みの目的に応じたプログラムのまとめをして終了です。

※利用者の希望に応じたアレンジが可能

配布する持ち帰りキット

参加者ひとりにつき1セット配布。
講師派遣あり・なし、いずれの場合もお渡しします。



ミニチュア屏風左

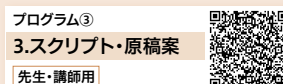
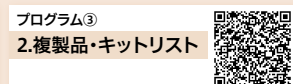


ミニチュア屏風右



高精細複製品の
パンフレット

文化財活用センターWEBサイトで以下の情報を公開しています
(ダウンロード可能です)。



4

プログラム

見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風

使用する複製品 おがたこうりん さかいほういつ じゅうようぶんかざい ふうじんらいじんず なつあきくさず びょうぶ
 尾形光琳／酒井抱一筆 重要文化財《風神雷神図／夏秋草図屏風》
 の高精細複製品(東京国立博物館所蔵)



プログラムのねらい

〈トーハク〉所蔵の重要文化財《風神雷神図／夏秋草図屏風》の複製を使用した対話形式のプログラムです。風神雷神図／夏秋草図屏風の原本は保存のため裏と表を分けて保存していますが、高精細複製品は表裏を一体にして作品の元の姿を再現しています。プログラムは照明による見え方の違いを感じた後、自分と同じ高さの床に置いた屏風に近づき、作品や描かれているものなどについて見て、感じて、楽しめます。じっくりと見て感じたことをお互いに言葉にすることを通じて、文化財に親しみ、多様な見方を受け入れることを目的としています。

参加対象 小学校3年生以上

参加人数 最大人数40名(学校の場合は1クラスずつの実施を推奨)

実施時間 45～50分

学校で実施する場合の使用可能科目 図画工作、美術、総合的な学習の時間など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース(横6メートル×奥行3メートル程度)があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。部屋を暗くできる場合は、照明による演出も可能。

キット一覧	内容	梱包の形態	梱包の数量
基本セット	屏風 2曲1双	180×150×20cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	ござ 4畳×2枚	80×60×10cm 程度の袋	1包
	屏風用照明	65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	ミニチュア屏風(持ち帰り用)・アンケート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
追加機材等 (投影機器等)	スクリーン	170×20×20cm 程度の段ボール箱	1個
	PC・プロジェクターなど	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨

※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし。または、パネルで対応

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか

開発の経緯と運用

「見て、知って、楽しむ風神雷神／夏秋草図屏風」はプログラム③と同じく2020年度から開始したプログラムのひとつです。開隆堂が発行している図画工作5・6の教科書に依屋宗達の風神雷神屏風が掲載されており、主題として目にする機会が多い作品であること、裏に描かれた夏秋草図屏風の作者は表の風神雷神図をよく見て考え、裏を描いたとされており、鑑賞の追体験ができることから新規プログラムとして開発しました。


本作品の特徴は、風神雷神図屏風が描かれた約100年後に夏秋草図屏風が裏に描かれたことにあるため、2作品の鑑賞を行いつつ裏と表の関係性について理解してもらうための時間配分に苦慮しました。既存のプログラムと同様に、担当研究員がじっくり鑑賞し、絵の見どころ、鑑賞の視点、方法、子どもたちから何をどう引き出すかなどについて話し合うことから始め、45分間でまとめることが出来る方法を探りました。実際に実施した結果、教室の広さや作りによっても感じ方が異なることから、できれば屏風を動かすのではなく、参加者が移動することによって裏と表を見ることが出来るスペースでの実施が望ましいと考えています。

本プログラムは講師1名でもできるような構成にしていますが、途中で屏風を動かす場合は講師のほかに1名サポートがいる体制での運用が望ましいと考えています。キットの準備に30分、実施前の会場での準備に約10分、現場での撤収片付けに約20分、戻ってきたキットのメンテナンス・片づけに30分程度を要します(利用者側の運用にかかる詳細はWEBサイトで公開している実施ガイドをご確認ください)。

1. ごあいさつから導入

時間配分	内容	詳細
4分	ごあいさつとテーマ	講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は『見て、知って、楽しむ日本の美術』というテーマで行います。」
	東京国立博物館とレプリカ(複製)について	東京国立博物館とレプリカ(複製)についてお話しします
	することの説明	プログラムの工程を説明します(話を聞く→じっくり見る→まとめ)

2. 解説

時間配分	内容	詳細
8分	照明演出	<p>〔屏風全体が見えるように座ったところからスタート〕</p> <p>屏風の色の変わり方を見る ご希望に応じて屏風照明2種類と自然光(もしくは蛍光灯)の合計3種類の光でお見せします。</p> 
	屏風を知る	<p>参加者に問いかけながら解説を行います。</p> <p>「この絵の形は屏風といいます。みなさん屏風って知っていますか?見たことはありますか?」 「屏風は、昔の人がおうちでつかっていたもので、折り曲げて床に置き、ついたてや、パーテーションのように、移動のできる壁として、部屋を仕切ったり、風よけや目かくしなどに使われました」</p>

3. 風神雷神図屏風の鑑賞と解説

時間配分	内容	詳細
10分	作品の第一印象を共有する	<p>作品をいろいろな角度や場所からじっくり鑑賞し、風神雷神図屏風の表現について理解するために、作品から受けた印象を声に出してもらい皆で共有していきます。</p> <p>〔全体を見る〕 まずは遠くから全体を見てもらい、描かれているものや目に入ってきたものを聞いていきます。 「気になったところはありませんか?」「第一印象は?見てどんな感じがしましたか?」 「何が書いてあるように見えますか?」 回答: 天空を舞う神様、鬼など</p>
	描かれているものを見る	<p>〔屏風に近づく〕 「何を持っているようにみえますか?」 回答: パチ、タオル、など 「ふたりの神様は何を思っているのでしょうか?」 回答: 戦って、待ち合わせしている、など なぜそう思ったのか続けて質問し、参加者全員へ共有します。 夏秋草図屏風につなげるための問いかけを行います。 「どんな音が聞こえてきそうですか?」 回答: 雷と風の音、など 「風はどのように吹いているように見えますか?」 回答: 右から左、左から、など 「どんなお天気だと思えますか?」 回答: 台風みたい、荒れていそう、など</p>
2分	解説	必要に応じて、講師が風神雷神図屏風の解説を行います。

4. 夏秋草図屏風の鑑賞と解説

時間配分	内容	詳細
15分	作品から受けた印象を共有する	<p>〔後ろに回ってもらう〕 裏の絵もいろいろな角度や場所からじっくり鑑賞し、風神雷神図屏風の表現について理解するために、作品から受けた印象を声に出してもらい皆で共有していきます。 「このびょうぶには何が描かれていると思えますか?」 回答: 草、花など 「音は聞こえると思えますか?」 回答: 草がすれる音、何も音はしない、など 「天気や気温はどれくらいだと思えますか?」 回答: くもり、雨、など 「季節はいつごろだと思えますか?」 回答: 秋、など 「何時くらいの風景だと思えますか?」 回答: 暗いから夕方、朝、など なぜそう思ったのか続けて質問し、参加者全員へ共有します。</p>
2分	解説	講師が夏秋草図屏風の解説を行います。

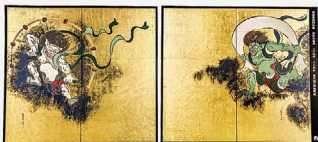
5. まとめ

時間配分	内容	詳細
5分	まとめ 終わりのごあいさつ	<p>表と裏を見て ・風の神さまの裏に、風に吹かれている秋草の様子 共通点: 風 ・雷の神さまの裏に、雨に打たれた夏の草花の様子 共通点: 雨 反対の意味をもって描かれたもの ・金と銀 ・天空の神さまと地上のいつでも見ることができそうな風景 ・自由に動き回っているような神様といつか枯れてしまう草花 があることを含めて、利用者の申し込みの目的に応じたプログラムのまとめをして終了です。</p>

※利用者の希望に応じたアレンジが可能

配布する持ち帰りキット

参加者ひとりにつき1セット配布(持ち帰り用ミニチュア屏風も裏表になっています)。
講師派遣あり・なし、いずれの場合もお渡しします。



ミニチュア屏風 風神雷神図屏風



ミニチュア屏風 夏秋草図屏風

文化財活用センターWEBサイトで以下の情報を公開しています(ダウンロード可能です)。

プログラム④

1.実施ガイド

講師派遣なし 先生・講師用



プログラム④

2.複製品・キットリスト

講師派遣なし 先生・講師用



プログラム④

3.スクリプト・原稿案

講師派遣なし 先生・講師用



5

プログラム

絵で読む平家物語

使用する複製品 へい け の も の が た り い ち た に や し ま か っ せ ん ず び ょ う ぶ
 《平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風》の高精細複製品★(イギリス・大英博物館所蔵)



© The Trustees of the British Museum (2017).

プログラムのねらい

古典「平家物語」のさまざまなシーンが描かれた《平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風》(イギリス・大英博物館所蔵)の複製を使用するプログラムです。右隻には「敦盛の最期」など、「一の谷合戦」にまつわる21のエピソードが、左隻には「那須与一の扇的」など、「屋島合戦」にまつわる8のエピソードが描かれています。どちらも教科書でもなじみの深い場面です。原文や現代語訳を参考にしながら、描かれた場面や人物をじっくり見ることによって、自分たちの感性を通して古典を生き生きと学び、文化財に親しむことを目的としています。

参加対象 中学校2年生以上

参加人数 最大40名(学校の場合は1クラスずつの実施を推奨)

実施時間 45～50分 ※60分や90分など延長も可能、45分未満の短縮は不可。

学校で実施する場合の使用可能科目 国語、古文、古典、美術など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース(横7メートル×奥行3メートル程度)があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。部屋を暗くできる場合は、照明による演出も可能。

キット一覧	内 容	梱包の形態	梱包の数量
基本セット	屏風 6曲1双	185×95×20cm 程度のプラスチック段ボール箱	2個
	ござ 6畳×2枚	80×60×10cm 程度の袋	1包
	屏風用照明	65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	ミニチュア屏風(持ち帰り用)・アンケート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
追加機材等 (投影機器等)	スクリーン	170×20×20cm 程度の段ボール箱	1個
	PC・プロジェクターなど	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨

※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし。または、パネルで対応

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか

開発の経緯と運用

「平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風」の高精細複製品は、在外の日本美術の名品の高精細複製品を制作し、日本国内の美術館博物館等に寄贈して活用をはかることを目的のひとつとする文化財未来継承プロジェクト(通称:綴プロジェクト <https://global.canon/ja/tsuzuri/>)によって、2018年に独立行政法人国立文化財機構へ寄贈された複製品です。そこで、博物館での活用だけでなく、広く学校等でも活用することを目指して、一からプログラムをつくりました。担当研究員がじっくり鑑賞し、絵の見どころ、鑑賞の視点、方法、子どもたちから何をどう引き出すかなどについて話し合うことから始めました。また、教科書にも取り上げられている平家物語の有名なシーンが克明に描かれているため、美術に限らず古典や国語の授業などでも使っただければ古典が生きた体験につながるのではないかと考えました。しかし、描かれている戦闘の場面には子どもたちへの配慮を要する生々しい表現もあったため、平家物語が授業で本格的に取り上げられる中学2年生以上を対象としました。


国語、美術、日本史など、教科横断型の特別授業などでも利用できることから、高等学校からのお申し込みが多く、また講師派遣なしの実施がいちばん多いプログラムです。講師派遣なしの場合、開発側の意図を超えた教科横断型での利用も多くみられ、終了後に届けられる報告およびアンケートを見ると、利用者が柔軟にプログラムと高精細複製品を利用し成果を出していることがわかります。

本プログラムは講師1名でも実施可能な構成にしていますが、屏風の重量があるため、屏風を取り扱う際には1名サポートがいる体制での運用が望ましいと考えています。キットの準備に30分、実施前の会場での準備に約10分、現場での撤収片付けに約20分、戻ってきたキットのメンテナンス・片づけに30分程度を要します(利用者側の運用にかかる詳細はWEBサイトで公開している実施ガイドをご確認ください)。

1. ごあいさつ

時間配分	内容	詳細
5分	ごあいさつとテーマ	(屏風全体が見えるように座ったところからスタート) 講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は『絵で読む平家物語』というテーマで行います」
	流れの説明	あわせてプログラムの流れ(お申し込みの目的によって変わります)を説明します。 複製品であることをここできちんと伝えます。

2. 鑑賞・解説

時間配分	内容	詳細
8分	屏風をひろげる	講師が参加者の目の前で屏風をひろげていきます。 ご希望に応じて屏風照明2種類と自然光(もしくは蛍光灯)の合計3つの光でお見せします。 
5分	作品から受けた第一印象を共有する	作品から受けた印象を声に出してもらい皆で共有していきます。 「第一印象は?見てどんな感じがしましたか?」 「何が書いてあるように見えますか?」 「この絵の中で、何が起こっていきそうですか?」 「どんな音が聞こえてきそうですか?」 「どんな匂いがしそうですか?」

ここまでは利用者の目的にかかわらず、共通して行います。この後の解説は、目的や参加者の意見に応じて、参加者が鑑賞する時間を挟みながら内容を選択して行います。

25分	文化財の見方	屏風の基礎的な知識として、屏風の使い方、屏風の構造、絵の描かれ方についてお話しします。美術などの授業で活用される場合は、雲や大地の表現、海の色、肌の色、線の描き分けなどに注目しながら、日本画の表現や材料、必要に応じて複製ができるまで、などをお話しします。
	この作品について	モチーフの選び方、構図など「平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風」の作品についてお話しします。
	古典、物語について	右隻の一の谷合戦から「鶴越の坂落とし」「敦盛の最期」、左隻の屋島合戦から「那須与一の扇的」を取り上げ、文学と絵画の観点からお話しします。
	表現について	描かれた表現から、地形や距離、甲冑や刀、公家と武家の身分の違い、源平の違い、物語と史実の違いなどに着目して解説します。

3. まとめ

時間配分	内容	詳細
5分	まとめ 終わりのごあいさつ	気づいたことや新しい発見など、参加者の意見をまとめてプログラムを終了します。

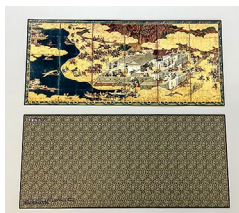
※申し込みの目的と、参加者の意見や発言に応じて様々な観点から解説を実施。利用者ご自身によるアレンジも可能。

配布する持ち帰りキット

参加者ひとりにつき1セット配布。
講師派遣あり・なし、いずれの場合もお渡しします。



ミニチュア屏風左



ミニチュア屏風右



高精細複製品の
パンフレット

文化財活用センターWEBサイトで以下の情報を公開しています
(ダウンロード可能です)。

プログラム⑤

1.実施ガイド

講師派遣なし 先生・講師用



プログラム⑤

2.複製品・キットリスト

講師派遣なし 先生・講師用



※プログラムのスクリプト・原稿案は、予約が完了した機関のご担当者様にデータ送付します。

機関名

足立区立西保木間小学校 (東京都足立区西保木間4-2-1)

実施プログラム

プログラム① 自分だけの松林図屏風をつくってみよう！



日時	2021年7月2日(金) (1・2時間目)
参加対象・人数	小学校6年生 1クラス (人数:31名) 図画工作
実施場所	体育館(1階) ※当初の申し込みでは和室を希望 (保管場所:和室)
講師	西木政統(文化財活用センター企画担当研究員) サポート:小島有紀子、清水澄子(文化財活用センター企画担当)
輸送方法	日本通運関東美術品支店 専用車両による輸送(搬入・搬出:学校対応、開梱・梱包:ぶんかつ職員)

利用者の目的・ねらい(図画工作:専任の先生より)

- 屏風の見せ方を考える体験を通して文化財に親しむ
- 水墨画に親しみ、墨の表現について知る

実施までの流れ

新型コロナウイルス感染症の影響により、直前まで実施可否について対応を協議した機関です。2021年3月にプログラム②で申し込みをいただきましたが、目的とねらいを電話にて確認し担当の先生と検討した結果、より申し込みの目的を達成できると判断しプログラムを①に変更しました。3月末に、当日講師を務める研究員が学校へ往訪して事前打合せを実施。場所を確認した結果、前半の鑑賞を和室で、後半の制作を図工室で行うこととしました。その後、東京に緊急事態宣言が発令され、解除の見込みが立った6月15日に実施の可否について学校と協議し、足立区の基準に従い実施することとなりました。ただし、和室ではスペース的に実施が難しい*と判断し、前半・後半ともに体育館での実施に変更いただきました。また、児童同士の発話・会話が難しい状況であるという連絡が学校からあり、設問を明確に投げて回答の選択肢を用意し挙手で回答する方法、および、自分の心の中で考えてみようという問いに変更して実施することになりました。実施可否の検討および内容の協議を行う必要があったため、電話・メールで15回ほどやり取りを行いました。無事に当日を迎えることができました。

*物理的なスペースによる問題ではなく、ソーシャルディスタンスの確保という意味での判断。

当日のプログラム内容

基本的にはプログラム①スクリプト・原稿案90分に基づいて実施をしましたが、変更点は以下の通りです。

- ③の屏風について見たことがある、知っている、使ったことがあるについて、挙手で回答できる問いに変更
- ④作品から受けた印象を声に出してもらい皆で共有する部分について、講師に対して発言してもらい、それを講師が参加者へ共有する
- ⑤近づいて鑑賞について、グループ分けを行ない、少人数ごとに鑑賞を行なう
- ⑤の問いについても挙手で回答できる問いに変更し、こちらから提示した回答に含まれないものについて講師に対して発言してもらい共有する方法に変更
- 後半の制作ではスタンプキットを共有せざるを得なかったが、直前に手指を消毒することにより対応
- 出来上がった作品の工夫したところなどは、講師が声掛けをして進める方法に変更

意見の共有について、通常の方法論とは異なるやり方であったため、他者の意見を聞いて多様性を認識する、自分の感じ方の変化をとらえるなど、現場で意見を拾い上げることはできませんでしたが、アンケートを見る限りはこの方法論でも実施可能と判断できる結果となりました。

事前・事後学習など

事前打ち合わせの際に調整を行い、先入観をなくすため事前学習は行わないように依頼しました。鑑賞の授業は1学期に一度は実施しているとのことで、先生が作成された「みるみるカード」という形式の意見を記述できるシートを用いて自分の感じたことをまとめる活動を行っているそうです。

◆屏風について

- びょうぶは、広い部屋で、かべのやくわりをしていると分かった。びょうぶはみぢかな所でも使われているとわかった。明るさで見かたがちがっていたり、近くで見て、松のこまかいところ(絵)を見ることができました。
- いろいろな角度から見ると同じ絵なのにちがう絵に見えたのが面白かったです。
- 最初は木がたくさんあってびっくりしました。
- 屏風は右から見るのが分かりました。そして、人によって色々な想像ができる事を知り、面白いと思いました。
- 光の明るさや、見る位置がちがうと屏風のふんいきがちがうことが分かった。色のこさだけで、絵の位置が変わるのがおもしろい。屏風1枚だけですごい色々な想像が広がるからいいなと思った。
- 見る角度、見る場所、見る人、その日も気分などで同じ絵でもちがうように見えるところがおもしろいなと思いました。すみ一色でもこいところやうすいところがあってすごいなと思いました。
- 絵の感じ方は自分の気持ちで変わると分かった。
- 屏風は部屋のしきりにも使われていたのは知らなかったです。それに奈良時代にも屏風があるのも知らなかったです。
- びょうぶをうごかすときは何もつけずに上のふちのところを持ってうごかすことが分かった。
- 昔にも筆やすみがあってそれで上手に細かく書いていてすごいなと思った。
- 屏風ってすごかっこいいなと思った。

◆制作について

- インクを付けたはんこを一回半紙におすことでうすくなり、またちがう風になっておもしろかった。
- ふででかくのはむずかしかったです。
- うすくかいたりこくしたりすると見え方がすごく変わっておもしろかった。
- スタンプを使って色の濃さ、うすさをくふうした。スタンプのはじだけをつかってふんいきを表した。みんなの個性があつてすごかった。
- 見方によって、作品の面白さが変わった。ただハンコを押すだけではなく筆ペンを使って背景を加えたりすることができた。
- 屏風は、人がいるのしか知らなかったけど、自然のものがあると知った。森っていうかんじを出そうと思ってうすくしたりしたら、出来て、うれしかった。半紙に、何回かポンポンしておしたらうすくできた。
- まわりをなぞったらきれいになった。
- 屏風を立てたら見え方が変わった。
- スタンプを押すときに、インクにつよくあてるとこくついて少しよわく押すとうすくなるのでそれを使ってこくなつたのに、うすいのを押してかげのようにするのがたのしかった。うすく押すとずっとおくまで続いているようになることがわかった。

◆こんなことがもっと知りたい

- 昔びょうぶをつくる時は道具はどのような物を使っていたのだろうか。びょうぶを作る人はどのような気持ちでつくっていたのだろうか。
- ほかにどんな屏風があるのか。
- 屏風はだれがどんなことを考えて書いたか知りたい。
- 本物見たい。
- 黒じゃない色でやったらどんなふうになるか。
- どうしたら、松林図屏風ワークシートの右のいちばん右のような木がかけるのか分からないから知りたい。
- 屏風の材料とどうやって作るのか気になりました。また、だれが一番最初に作ったのか知りたくまりました。
- ほかにたくさんあると思うから、その絵も知りたい。なんでこんなに高いものを風よけにしたのか知りたい。
- 屏風は、種類とかあるのか知りたい。屏風の作り方はむずかしいから昔の人はどうやって色のこさなどをやったのか知りたい。
- 他のびょうぶや日本の絵も見てそれぞれの特ちょうなどを見つけてみたいです。
- びょうぶは一色の黒だけでなく、他の2色などでやってもおもしろいのか知りたい。
- 屏風の材料は何か。どうやって作っているのか。
- 屏風はだれがかきはじめたのか知りたい。屏風は仕切る?ためにつかわれていたと知っておどろいた。
- 書いた人によって感じかたがちがうからみんなに聞いてみたいと思った。
- この絵を作った作家また、他の絵など。

講師より

はじめの时限では時間をかけてじっくりと松林図屏風の高精細複製品を鑑賞し、絵の中に広がる風景や音、季節、時間を想像します。それぞれの意見交換を通じて、絵の見方は多様であること、自由に楽しめることを学びました。続く时限では、空白を設けたびょうぶ型のワークシートに松の木のスタンプを押したり、筆ペンを使って自由に題材を描き足したり、各自個性豊かな自分だけの松林図屏風を作りました。鑑賞の時間に学んだ、空間の間仕切りとしての屏風の特性を生かし、屏風ワークシートで各班の机を仕切るなど、日本文化に対する知識も深まったようでした。(西木)

機関名

東京都立つばさ総合高等学校 (東京都大田区本羽田3-11-5)

実施プログラム

プログラム① 自分だけの松林図屏風をつくってみよう!



日時	2021年11月8日(月) (3・4時間目)
参加対象・人数	高校3年生 (人数:15名) 美術史
実施場所	普通教室(校舎2階) (保管場所:美術準備室)
講師	小島有紀子(文化財活用センター企画担当研究員) サポート:清水澄子(文化財活用センター企画担当)
輸送方法	日本通運関東美術品支店 専用車両による輸送(搬入:日本通運、開梱・梱包・搬出:ぶんかつ職員)

利用者の目的・ねらい(美術:専任の先生より)

本校は美術・デザイン系列があり、年間20人程度の生徒が美術系大学や専門学校に進学しています。このプログラムの利用を希望している「美術史」の授業を履修しているのもおおむねそのような生徒たちです。将来社会で芸術文化の発展に寄与していくであろう生徒たちに、より質の高い鑑賞教育を行うことで、自国文化への興味関心を引き出し、深い理解に導くために本プログラムを活用したいと考えています。

実施までの流れ

申込開始から1週間ほどたった時期に申し込みをいただきました。希望日について、既に他機関での実施が決定していたため、候補日程の調整を依頼して最終的に11月に変更いただきました。5月のGW明けに再度連絡をとり、輸送と事前打合せの日程を調整しました。9月の緊急事態宣言明けに実施について検討を行い、東京都の基準に従って実施することとしました。10月の事前打ち合わせでは実施場所や保管場所の確認とともに、目指す内容や目的のすり合わせを行い、最終的にはメールで内容確認の上、当日を迎えました。

当日のプログラム内容

基本スクリプトに沿って実施。人数も少なかったため、じっくりと参加者の意見と向き合い、制作にも取り組むことができました。1時間を鑑賞、1時間を制作にとりました。

事前・事後学習など

美術史の授業枠で実施を予定していたため、カリキュラム通りに進めていただき、特に事前学習を行うことなくプログラムを実施しました。

Q. 作品を鑑賞し、作ってみて、分かったことや、面白いと思ったことはなんですか？

- ・同じ角度から見ても、光の当たり方や、その時の心理的状況などによって見え方が変わってくるのが面白いと思った。
- ・鑑賞する環境、気分、日などによって印象が変わってくるというのはとてもおもしろいことだなと思った。作ってみて、本当に人によって作品が全然違うし、作っていくうちにああしよう、こうしようというイメージがどんどん湧き上がってきてとても楽しかった。
- ・白と黒だけでも松を置く所によって立体感が生まれて奥ゆきがある。色の濃い部分は屏風の中央に置かれていて、他の木の色がうすい分中央が強調されていると感じた。
- ・スタンプだけではなく自分でも描きたすことの楽しさを知った。
- ・表現の仕方は十人十色。照明によって季節感や天候などの見え方が変わるのが面白かった。
- ・光や背景によって感じ方が変わったことにおどろきました。空気の質感や、音が伝わってくるようで面白かったです。自分で作ってみると思いの他配置が難しかったです。
- ・白黒だけで表現するのはとても難しかったです。光の当て方で見え方が変わるのはとても面白いなと思った。
- ・屏風についてあまりふれる機会がなかったので、見方やとらえ方など、とても面白く、勉強になりました。
- ・表現方法は1つとは限らず、いろいろな世界観や空間を意識しながら作ったときがとても面白かったです。
- ・近くで見てもたり、光を変えてみるだけで、雰囲気全然ちがうのが面白いと思いました。山とかきり(?)のすごくうすく描いてある表現がすごく好きだなと感じました。色々な考え方があっておもしろかったです！ありがとうございました！
- ・見る人によって、季節やなにが描かれているかが変化するのが少し面白かったです。自分の中では松林図は冬だったけれど、1人1人意見を言っていく場で、夏や秋と答えている人の意見も妙に納得できて、そこが面白いと思いました。今度美術館等に行くとき、友達や親も連れて行って意見交換してみたいです。
- ・光や場所によって見え方が大きく変わっていくのが面白いと思いました。個人的にはオレンジ色の好きでした。スタンプでつくっていくのとても楽しかったです。

Q. もっと知りたいと思ったり、興味を持ったことなどありますか？

- ・本物が並ぶ美術館に行ってみたい。
- ・これほど大きい作品を一人で描いたのか、どれくらいの期間で描いたのか。
- ・他にどんな国宝があるのか知りたい。
- ・松の木以外にもっと他の屏風の絵を知りたいと思った。
- ・作者の出身地の冬の風景や他の作品も見たいと思いました。他の屏風も見て比べてみたいと思いました。
- ・ハンコでの表現のしかた。他の作品も見たい。
- ・屏風のこうぞうとか、どんなすみかとか、画材などにきょうみを持ちました！！
- ・他にもどんな作品が過去にあるのか気になりました。
- ・他の人のだったり、他の作品はどんなかんじでまた変わってくるのかを見たいなと思いました。
- ・今度は本物の方も実際に見に行きたいと思います。また、描かれた背景も調べてみようと思います。
- ・どうやって使うかを考えて楽しむのがとても興味深かったです。つくり方。

先生からのご意見・ご感想・参加者の反応など

日本美術史でこのプログラムを申し込み、この授業の後に安土桃山時代の作品を扱う予定だったので、松林図屏風が見られてよかった。実物大の作品が鑑賞出来て、生徒たちがいつもよりいきいきしていた。楽しそうに鑑賞していて、いつも見られない様子が見れて楽しかったです。

講師より

高校生の美術史での授業ということもあり、どのような会話が広がるか若干の不安をかかえてプログラムを行ないました。先生からのコメントにもあったように、授業の進行と合わせて実施できたこともあり、美術史中心の展開を想定していましたが、自分の感性を通してじっくり見て感じることによって想像を広げる方向に展開しました。高校生ということもあり非常に豊かな感性で感じたことを制作にあらわしてくれました。また、屏風をひろげる前から、「中にどのような絵が描かれているか」「どうやって取り扱うのか」など、鑑賞のみならず調度品としての機能を理解した上での質問などもあり、多方向に興味を示してくれていたことが非常に印象的でした。(小島)

機関名

板橋区立向原小学校 (東京都板橋区向原2-34-1)

実施プログラム

プログラム① 自分だけの松林図屏風をつくってみよう!



日時	2021年11月19日(金) (5・6時間目) ・ 20日(土) (3・4時間目)
参加対象・人数	小学校5年生 1クラス ・ 小学校6年生 1クラス (当日参加: 合計70名)
実施場所	体育館(地下1階)
講師	小島有紀子(文化財活用センター企画担当研究員) サポート: 松沼穂積(文化財活用センター企画担当専門職)
輸送方法	日本通運関東美術品支店 専用車両による輸送(搬入・搬出: 学校対応、開梱・梱包: <ぶんかつ>職員)

お申し込みの目的・ねらい(図画工作: 講師の先生より)

学習指導要領の内容に沿って、学習済み。墨を扱った題材は、6年になって触れる。
5年時に、墨を扱った活動に触れておくことで、6年時の活動の幅が広がると考える
国宝の複製に触れながら、自分だけの松林図屏風を作成する機会を生かし、文化財等への関心を高めたい

実施までの流れ

2020年にお申し込みをいただきましたが、コロナウイルス感染症の影響で中止せざるを得ず、改めて2021年度にお申し込みをいただいた機関です。事前打ち合わせは2020年度に済んでいたため、2021年度はその内容をベースとしてメールと電話によるやり取りで当日を迎えました。前年の打ち合わせ時には、実施場所の候補が2か所あり(体育館とランチルーム)、児童ひとりひとりのスペースを確保するために体育館を選択した経緯があります。2019年に実施した板橋区立上板橋第二小学校の先生と事前に情報交換をされており、終了後のアンケート返送までスムーズに進みました。

当日のプログラム内容

基本原稿に沿って実施し制作まで進みましたが、文字によって感じたことをきちんと表現してほしい、という希望があり、アンケートの欄を大きくして書く時間を長くとりました。また土曜日は学校公開日で保護者の見学もあり、アンケートの内容の発表に時間を割く形となりました。90分の設定でしたが、実際のプログラムとしては45分、アンケート記入に20分、発表に25分程度の配分となりました。

事前・事後学習など

文化財との出会いを新鮮なものにするため、事前学習は一切行わず、事後の学習で講師の話の内容をふりかえる授業を行ったとのこと。

参加者のワークシート内容紹介(一部抜粋 ※すべて原文のママ)

◆ 屏風について
(5年生)

- 松林図屏風を見て、自然の光やちがう光で季節が変わったように思えたので面白いなと思いました。また、黒だけで色々なふんいきをだせていてすごいなと思ったし、同時に面白いと思いました。
- 色々な木の種類があり、たのしめた。(形がさまざまでおもしろい)気持ちによって見方がちがうとなんかすてきでおもしろい。下に根っこがみえていてかわかった。
- こい、うすいで印象がまったくちがったことがおもしろかった。光によって見え方がまったくちがっていたのでびっくりした。どのような人がどのような風景を見ながら描いているのかがよく分かった。
- いろいろな形、こさの松の木がえがかれていて面白かったです。一つだけえがかれた山を生かしてとても美しい屏風でした。一本一本の松の木がていねいにえがかれていて手のこんだすてきな作品でした。昔の人はこのような作品を手がきで作り想像することができて、あらためてすごいと思いました。
- すみだけでこんなに豊かな表現ができることが分かった。その日の状態によって見るかんじが違うから、体調が悪い時とかに見るとどんなかんじに絵が見えてくるのか知りたい。

- ととくに木がおいてあるくふうやきりがかかっているみたいでおもしろかったです。あと、木をどこに置く工夫もすごかったし、でっかい木をふででかいているとわかったですごいなーと思いました。
- 光の色や、日光の色などで、感じる感じがちがくおどろいた。人によって感じるこゝ、思うこゝ、季節や時間が全部こゝなつてちがったこゝ。木やきりをひょうげんするのはどのよゝな心で書き作っているのか、せいさくしている人の気持ちがかよになつた。
- きりなどの自然のゆたかさを表していると分かり、すごいと思いました。その他にも林の木のならび方やきりや空気のせいせうすくなつてゐる木の再現など、いろいろな自然を見て書いた作品なんだなと思いました。

(6年生)

- 墨しか使っていないのにこさのちいかき方等をよく考へてつかえば色とりどりの絵にもまったくおとらない美しい絵をかけるんだなと思つた。不思議な感じ。
- 現代の色で照明で見たとき、最も綺麗に見えた。月光に見えた。水面に反射した月が見えた気がした。
- きりが墨を使わずにうまく表現していたこゝを見ておもしろいと思いました。墨がうすくなつてゐる木はわざとそうしているのならなぜ墨をうすくして林をかけたのか不思議に思いました。ちゃんと根もかいてあつて作者の出身地はとてゝ自然の豊かなこゝだなと思つた。
- 明かりの色や見る角度を変へると、屏風の見え方が全然変わったのが不思議でした。つながっているよゝにも見えて面白かつたです。墨だけで松の木や自然が表されていたのもすごいと思いました。屏風は風などをささげるものですが、絵も楽しむことができるんだなと思つた。
- 私が見て思つたこゝは、木の上の方がこゝなつてゐて、下の方がうすくなつてゐるこゝを見て、太陽の光がさしてゐて、木のかげでこゝなつてゐるのかな、とか、夜の月の光にてらされているなど色々な想像でき、少し見るだけでもこゝなにかわるんだと説明をきき、あらためてとてゝきれいですごいとあらためて思つた。

◆ 制作について

(5年生)

- 絵を見てその絵の想像などができた。手でぼかしているこゝもわかつたし、はじめてつくるものだからすこしうまくいかなかつたこゝもあつた。見本でもあるよゝにうすいこゝなどが工夫だと思つた。
- 一本一本の木がゆれているよゝに色のうすさや、こさ、位置などでとてゝ現実を見ているかのように様々な工夫があつたので体験でやってみるとむずかしくて松の作品がすごいと思つた。

(6年生)

- 灰をつかうとき(筆ペン)強く書いた時と弱く時では全くちがうかんじで今自分が思っているこゝが絵にそのままでおもしろかつたです。(例「あーつかれたなー」と思つたらそんな感情が絵にでた)

◆ こんなこゝがもっと知りたい

(5年生)

- 他にどんな絵があるのだろうか。なぜまつを絵書いたのだろうか。作つた人はなぜこんな絵をおもいついたのだろうか。どんな時におもいついたのか。
- 屏風いがいに日本文化財の物をもっと知りたくなりました。なぜかといふと、日本文化のものよさがわかり作つてみて楽しいと思つたからです。こんどは博物館にいってもっとくわしくいろいろな日本文化をみたいです。
- 1のこゝをふまえ絵や芸術がおもしろかつたし、もっと日本の文化にふれたいと思つたし、芸術か日本のこゝをもっと知りたくなつたり、こゝなにか小さな島国ながらエネルギーを感じるこゝができた。
- みんな最初に感じたこゝがばらばらだつたのでおどろきました。もっと色々な屏風を見たいと思つた。
- 他のびょうぶも見てみたいです。そしてその印象やおもしろいこゝを見つきたいです。ちがう文化財も見て、歴史も学びたいと思つた!!

(6年生)

- ほかのびょうぶが見てみたいです。あとは、どうやってかくのか、ほかにはどんな文化ざいがあるのかをしりたいです。今日の勉強で日本の文化のおもしろさを知つたので美術館などでも見てみたいと思つた。とてゝ興味がわきました。
- この松林図屏風をかくとき、作者はどんな感情だつたか知りたいと思つた。今(昼間)と夜、でどうみえ方がちがうか実際にみて確かめたいと思つた。屏風をみるだけではなく、屏風をつくるこゝの実際の様子もみてみたいと思つた。
- 無理なこゝだけだ、作者がどんな思ひで松林図屏風を作つた(描いたのか)。
- いろいろな和風のものを知り、生活にかたり、昔の人のくらしをそうぞうしたりしたいです。

先生からのご意見・ご感想、参加者の反応など

興味関心を強く示す児童と、そうでない児童がいた。鑑賞後のスタンプを使用しての制作の流れが良かった。1点に絞つての今回のよゝな活動は、児童にとつてもよい刺激になつたと思ふ。他の作品についても、発達段階にちひ、外部講師を招き、授業を行いたいと思つた。

講師より

2日間にわたつて実施しましたが、5年生は翌年度に図画工作で習う墨の授業に向けて色の表現などを中心に鑑賞しました。事前の知識も全くなかつたこゝから、受け止め方も非常に柔軟でいろいろな意見が出てきました。制作では、鑑賞で学んだこゝ・感じたこゝを表現したいという希望が多く、松のスタンプ以外に、念のためキットに入れている筆ペンを使用して墨の濃さを自分で考へながら作っている児童が多くみられました。6年生の鑑賞では描かれていないもの(霧・霞・もや)や絵の奥ゆきなどの気づきがあり、制作ではスタンプの一部にのみインクをつけて背景を表現したり、目に見えない空間をあらわしたりと、それぞれの工夫を凝らしたミニ屏風ができました。感じるこゝに重きを置くか(鑑賞の時間を多めにとる)、表現(制作+アンケート記入+発表に時間をとる)に重きを置くか、について考へさせられるケースとなりました。(小島)

機関名

世田谷区立玉川中学校 (東京都世田谷区中町4-21-1)

実施プログラム

プログラム⑤ 絵で読む平家物語



日時	2021年12月1日(水) (1時間目～4時間目)
参加対象・人数	中学校2年生 4クラス (当日参加:合計120名)
実施場所	多目的ホール(校舎3階)
講師	1・3時間目:小島有紀子、2・4時間目:西木政統(文化財活用センター企画担当研究員)
輸送方法	日本通運関東美術品支店 専用車両による輸送(搬入・搬出:学校対応、開梱・梱包:くぶんかつ)職員)

お申し込みの目的・ねらい(校長先生より)

- 「日本文化の理解を進める(文化財に親しむ)経験をしてもらいたい」
- 「過去の歴史からの学びを知ってほしい」
- 「生徒同士の対話的な学び、教科の学びを活かす経験をしてほしい」

実施までの流れ

受付開始初日、最初にお申し込みをいただいた学校で、東京国立博物館関係者からの紹介で本プログラムの利用を検討し申し込んでくださった機関です。受付後に輸送などの連絡調整をメールで2度ほど行い、実施2か月ほど前に学校へ講師が往訪して1時間程度の打ち合わせと実施場所の確認を行いました。その後、打ち合わせ内容を再度メール送付で共有し、当日を迎えました。

当日のプログラム内容

基本プログラムのうち、文化財と古典の内容を中心にする形で実施しました。この時期は特段の行動制限はなく、学校からも問題ないという判断をいただき、クラス全員で屏風に近づき鑑賞や意見交換を行うことができました。

事前・事後学習など

国語科で平家物語を事前に学び終えておく形で、当日を迎えてくださったとのことです。

参加者のアンケート回答紹介(一部抜粋 ※すべて原文のまま)

Q. 作品を鑑賞し分かったことや、面白いと思ったことはなんですか？

- まず、「びょうぶ」というものは知っていたけど、実際に見たことはなく、大きさや質感などを間近で知ることができ、そこから興味をすごくもちました。よく絵を見ると、授業で習った場面の絵や、自分の知識として知っていた場面の絵などを見つけたりして、すみからすみまで時間をかけてじっくりいろいろ探したいと思いました。すごくおもしろかったです。
- 絵画を鑑賞して、一つの戦いだけでも色々な場所で色々な出来事があり、それらには理由があると思うと面白かった。また、身分によって、格好が全然違うことに気付いた。また、主に戦っている人もいれば、影から敵をたおしているという、両方の作戦が詳しく分かったので、どのような戦い方があるのかを学ぶことができた。
- 絵画を鑑賞して、時代の背景なども読み取れたり、光の明るさで、見方や考え方が変わるのが、面白いなと思いました。
- 授業で習ったところが出てきて、すごくワクワクしました。昔の絵の燃えているところの描き方が現代とは違うことを知った。平敦盛が逃げ遅れたということを授業で習ったけど、絵画では以外と逃げ遅れていないことに気がついた。
- 昔の楽しみ方を知れたのがおもしろかったです。絵画を鑑賞して時系列になっているんだと気づきました。
- 右から順に物語がすすんでいたので、同じ人物が3人いたり、とてもおもしろかったです。それぞれの物語の有名な場面を見ることができた。顔がこわかったので、戦場の迫力が分かりました。

- ・国語の授業で習った那須与一について、距離、周囲の状況、波の高さ、扇の位置などを絵で見て知ることができました。
- ・平家物語で書かれていた様々な場面が1つの絵につまっていることがすごいと思いました。
- ・国語の授業で学んだ場所が出るのは面白く、また勉強のやるきにもつながりました。また、まだ授業を受けていない先の場面も分かり予習にもなりました。
- ・絵画を鑑賞して、絵で読むことの意味を知ることができました。絵で読めたことは、昔の人々がどのような感情を持ちながら行動していたのかを、自由に想像できるのが、絵を読み取る特徴だと思いました。
- ・授業で習った人物が描かれていてびっくりした。色々な人物の下や左右に名前が書かれていて面白かった。
- ・国語だけではなく歴史についても知れたのでよかったです。
- ・絵で平家物語を読むことができ、右から左に時が流れていき、ストーリーについてよく知ることができました。
- ・国語の授業で習った平家物語だが、授業中は物語は分かったが実感がわかなかった。だが実際に屏風を見てよく理解が出来た。
- ・最初に屏風を見せていただいたとき、まず思ったことは、屏風の大きさ、色彩の美しさ、それと、学んだ平家物語が描かれていたことです。
- ・1枚の中にちがう時系列のことがかかれていて面白いと思いました。
- ・いろいろな場面が1つの絵として描かれていて面白いなと思いました。授業で学んだ場面や、まだ知らない場面のどちらもみることができ、授業で学んだ場面は、このようになっていたんだ！と知ることができました。
- ・描かれている場所によって、時が変わることに気付くことができたことで、同じ人が何人もいる理由を知ることができた。
- ・昔使われていた光、蛍光灯の光、自然光で絵の見え方が違うこと。絵本体にも魅力がたくさんありましたが、光がプラスされることでちがった魅力が生まれ、おもしろかった。
- ・明かりの色によって見え方が大きく違うことや、少し色が落ちてきてしまっていること、昔の人も今の人も好きな場面が同じなことが分かった。

Q. もっと知りたいと思ったり、興味を持ったことなどありますか？

- ・絵画のつくり方や画材などを見てみたいと思った。物語を絵画にしたものをもっと見てみたいと思った。
- ・ほかの時代の背景も、もっと知りたかったので、ほかの絵画も見てみたいと思いました。
- ・もっともっと平家物語をしりたい。古典を知りたい。絵を作っている所を見たい。
- ・絵画で描かれた場面の季節が知りたいと思った。その季節によって暑い、寒いなど。
- ・この時代は写真とかもなかったのに、どうやって全体の構図を描いたのか気になる。
- ・なんで、描かれた当時は空を飛べるものがないのに上から描けたのか気になった。
- ・建物の中にいた女の人たちは、当時どんな思いで戦争をどう感じながら中にいたのだろうと思いました。それに加え、女の人を背中にかついで逃げている様子の人もいてすごく気になりました。
- ・なんで戦を記録に残したのかがなぞだなあと思った。
- ・他にはどんなびょうぶがあるのか気になった。
- ・本物を見てみたいと思った。
- ・一回使ってみてみたいと思った。
- ・他のびょうぶも見てみたいと思った。そして今回のびょうぶも、もっとしっかりとみて楽しんでみたいと思った。
- ・なぜ与一が扇を射たしゅんかんの場面を描いたのか気になった。
- ・なんでイギリスに本物がいったしまったのか。
- ・昔の家で、そのびょうぶが使われている所を再現したいな、江戸村みたいなのに行ってみてみたいとおもった。

先生からのご意見・ご感想、参加者の反応など

学校内のスペースを有効活用して、広い空間で観ることができたことは大変良かったと思います。生徒の反応は極めて良好で、気づきや学びがありました。また「ミニチュア屏風」をいただくことで、後の学習にも活用ができて良かったと思います。

講師より

まず、生徒さんの目の前で屏風をひろげ、当時の灯りを再現した照明のもとで鑑賞しました。そして、調度品としての屏風の特色や、その取り扱いについて簡単にお話ししました。次に、画面全体と細部を交互に観察することで、物語中の個別のエピソードに注目するとともに、合戦図としての表現も楽しみました。さらに、気づいたことや感じたことをみんなで共有し、絵画を通して平家物語の世界を味わえたと思います。ちょうど国語の授業で「扇の的」や「敦盛の最期」などの単元を学んでいたため、生徒さんは授業に登場した場面を探して、活発に意見を交換することができました。先生からも「生徒にとってよい刺激になったのではないか」とのご感想を頂きました。(西木)

機関名

葛飾区立川端小学校 (東京都葛飾区東立石1-2-1)

実施プログラム

プログラム① 自分だけの松林図屏風をつくってみよう！



日時	2021年12月11日(土)1・2時間目
参加対象・人数	小学校5年生 2クラス (当日参加:合計55名)
実施場所	図工室(校舎2階)
講師	1時間目:小島有紀子(文化財活用センター企画担当研究員) 2時間目:松沼穂積(文化財活用センター企画担当専門職)
輸送方法	日本通運関東美術品支店 専用車両による輸送(搬入・搬出:学校対応、開梱・梱包:くぶんかつ)職員) ※一部、宅急便による返却

お申し込みの目的・ねらい(図画工作:専任の先生より)

6年生が6月末に墨汁を使用して水墨画風に竜の絵を描く予定。2月には赤白梅図屏風の学習をする。5年生は昨年に西洋美術館、今年度9月に現代美術館で鑑賞授業をするので、日本美術にも触れさせたい。

実施までの流れ

初年度となる2019年4月にお申し込みくださった機関で事前打合せも行っていましたが2020年3月上旬に実施を予定していたため、延期しました。その後もコロナウイルス感染症による学校閉鎖、鑑賞の授業の制限などがあり、3度の延期を経て実施となりました。2年延期になったため、当初予定していた対象の児童たちが卒業しプログラムを受けてもらうことができず、再度、事前打合せを行って当日を迎えました。2019年段階で入念に打ち合わせを行っていた関係で、1時間程度の打ち合わせと実施場所の確認、並びに打ち合わせ内容の共有のみで当日を迎えることができました。

当日のプログラム内容

内容自体は基本プログラムのうち90分のバージョンでの実施でしたが、講師派遣日は前半の鑑賞のみを実施し、後半の制作は翌週に先生が実施する形式としました。

事前・事後学習など

翌年度の墨汁を使用して水墨画風の作品を描く参考にしたい、とのことで、水墨画に関する特別な事前学習は行わず、ただしアートカードを使用した鑑賞を直前に行って、鑑賞に緊張しないようにしてから当日を迎えてくださったとのことです。

◆ 屏風について

- 二枚のびょうぶを見て、自分でも二枚つくってスタンプをおしただけだったから本物のすごさはわからないけどきつと本物は自分がつくった作品よりはるかに上だから本物の大切さが知れてよかった。
- 前に見た時、あかりの色がかわっただけで印象がかわっておもしろかった。
- 大きいのを見てみて、かんどうしました。くらやみで、昔の人はこうやってみていたんだな、きれいだなと思いました。スタンプをおしてみたらほんものにかかれていたやつがあって、びっくりしました。
- 土曜日に屏風をみたとき、こいところやうすいところがあって、おもしろかった。作ったときに再現してみた。
- 木の角度によって風景が変わったように見える
- 昔の人は、自分の心を表現して書いているのがすごかった。自分の気持ちを表してこの時代まで残っているのがだいじにしているんだなあってわかった。
- びょうぶが右だけと、左をあわせたとときで、まったくちがくて、とても面白かったです。

◆ 制作について

- かくのがとてもむずかしかった。いろいろじぶんの考えをかけて楽しかった。
- スタンプをおすときにどのくらいの力でスタンプをおすのが難しかったです。こくやったり逆にうすくやってみたりしてもとてもキレイにしあがってすごかったなと思いました。
- 昔のことを考えながら描くのが楽しかった。
- スタンプの押し方によって表し方がちがう!
- 昔の人は筆で書いているのがすごいと思いました。
- スタンプで土をひょうげんできた。
- ハンコと自分の絵をくらべて自分の絵がへただったので、書いた人はすごいな~と思いました。
- 松林図屏風のことをしれてよかった。土曜日休んだけど楽しかった。
- 自分だけのよさや他の人にしかできない松林図屏風を見てすごいと思いました。
- こさやうすさだけでえんきんかんがでる。スタンプの上のふぶんだけおすと、山みたいになった。
- ほんものびょうぶみたいで、すごかったです。あとは、いろいろな松のスタンプがあって楽しかったです。
- インクをあまりつけなくておすときりがでているみたいに見えておもしろかった。
- スタンプの時にうすくなったり、こくなったりするのが、かげみたいでおもしろかったです。

◆ こんなことがもっと知りたい

- むかしの人がつかっていたどぐうやせっきがもっと知りたいです。
- かげの作り方などをもっと知りたいです!!お花のを次またあたら作ってみたいです
- かきかたやつくりかた
- 何種類あって何人の人がはたらいているのかが気になる!!刀が見たいです!!
- 自分の気持ちを表現して花とか色がついている物はどうやって色をつけているのか知りたい。書いた人は、動物とかもかいているのか。
- どうやって未来にうけつぐのか
- 色のちょうせいのしかた。
- 書いた人はなんのふでをつかっていたか。
- いせきなど(石器、どぐう、ミイラ)
- ほかにどんなびょうぶがあるか。
- 日本のじゅうようぶん化財をしりたい
- もっと昔の物を知りたいです。

先生からのご意見・ご感想、参加者の反応など

実際に間近で見られることの良さを、一番感じました。鑑賞の6日後に、屏風づくりをしました。ほとんどの児童が、自分で季節や時間、天気、まわりの様子などを想像して、集中して取り組んでいました。鑑賞時は興味を持って、見て、思ったことを話したり、考えたりしている児童がたくさんいました。制作時はスタンプの押し方を工夫したり、鉛筆で思いついたものを描き足したりと自分なりの工夫をして、楽しんでつくっていました。

講師より

11日に松林図屏風の鑑賞、翌週にオリジナル屏風の制作と、2週に分けてプログラムを実施しました。まずはろうそくの灯りを模した照明や自然光など、異なる光のもとで屏風を鑑賞し、見え方がどのように変わるか体験しました。次に表現に注目しながらじっくり鑑賞し、最後は描かれた絵の中に入り込んだつもりになって、思い浮かぶ情景について意見交換しながら想像を広げました。児童のみなさんがそれぞれの気づきを活発に発表し、さまざまな発見がありました。(松沼)

機関名

聖ヨゼフ学園小学校 (神奈川県横浜市鶴見区東寺尾北台11-1)

実施プログラム

プログラム③ 見て、知って、感じる松林図屏風



日時	2022年1月13日(木)1時間目～4時間目
参加対象・人数	小学校4年生 2クラス・小学校6年生 2クラス (当日参加:合計149名)
実施場所	AV教室(校舎1階)
講師	1・3時間目:小島有紀子・2・4時間目:高橋真作(文化財活用センター企画担当研究員)
輸送方法	日本通運関東美術品支店 専用車両による輸送(搬入・搬出:学校対応、開梱・梱包:くぶんかつ)職員)

お申し込みの目的・ねらい(美術:専任の先生より)

2学期に、日本美術院の先生に墨絵の出前授業があり、4年時には、国立西洋美術館と東京国立博物館を見学した。屏風絵が制作された時代環境を再現しようとするので鑑賞をさせたい。
美とは何かを考えるきっかけを与えたい。

実施までの流れ

2020年にお申し込みをいただきましたが、コロナウイルス感染症の影響で中止せざるを得ず、改めて2021年度にお申し込みをいただいた機関です。事前打ち合わせは2020年度にも実施していましたが、2021年度は対象となる児童が変わることもあり、改めて事前打ち合わせを実施機関で行ないました。その上で、打ち合わせ内容をベースとしてメールと電話によるやり取りで当日を迎えました。

当日のプログラム内容

基本スクリプトに沿って実施しましたが、4年生は自分にとっての「美しい」を考えながら鑑賞する、6年生は描かれた当時の生活を想像しながら鑑賞するという、学年に応じたねらいのご希望に合わせ、当日の参加児童の様子も見ながらその場でアレンジを行ないました。4年生はほぼスクリプト通りでしたが、6年生は授業途中で屏風の置き方を変更し、プログラム②松林図屏風をプロデュースの内容を一部取り入れての内容となりました。

事前・事後学習など

先入観を持たせないよう事前は時程の案内のみとし、事後に「美しい」を考える授業、使われた当時を考える授業で学習をしてくださったとのことです。

参加者のアンケート内容紹介(一部抜粋 ※すべて原文のママ)

(4年生)

◆ 分かったことや楽しかったこと

- 明かりの色でふんいきがいきにかわるからすごいな、きれいだなと思った。左右の屏風を見て同じ形の木はないと思いました。
- 木が少ない。すみだけをつかっていたこと。きりがかかっているようにみえたこと。
- 白黒なのにびょうぶがいつかとか、どういかんじかそうぞうがつかまりました。光の色や次の日見たりすることで、そうぞうするふうけいがちがったり、考えやぎもんをもつことでもっと楽しめました。
- 松の木が何かを強くささやいているなと思いました。
- 発言していた人たちの意見と自分の意見をくらべてみて人によって、美しいと思うものがちがうということを実感することができました。
- 白と黒の色を使ってかいていると思ったけど黒しかつかってなくてびっくりした。みんなやまにも見えるとって見方をかえたら色々な物に見えるのがびっくりした。
- すみだけを使っていること。竹が見えているところがあつたり、みえていなかったりするところ。いろいろなつかい方があつたこと。人それぞれかんじ方がちがうこと。いかにも”昔“て感じがした!絵がうまい!りつたいてきた。

- いろいろな見方でいんしょうががらりとかわってくる。いろいろな書き方があっておもしろいな、とおもった。屏風の形がとてもおもしろかった。墨だけで書いたなんてすごい。
- こまかいところまでかいてたところ。色なしでも美しくかけたのがすごかった。その絵のないようはかいた人にしか分からないこと。
- びょうぶを見たときうつくしすぎて家におきたいです。

◆ もっと知りたいこと

- 作者がどういう気持ちでこれをかいたこと。どこでこれをかいたか。どのかくどでかいたかなどをしりたい。
- 他のびょうぶを見てみたいです。びょうぶのしゅるいによって見方・くふう・かんじることがちがうので見てみたいです。
- ほかの人々がどんなそうぞうしているか知りたいです。
- えをもっとしりたいゆめいなえやうつくしいえをみたい。
- 長谷川とうはくさんの作品をもっとたくさん見てみたいです。でも今度は家族で行って、この作品は～かな～と自分で予想してみたいです。
- 筆の毛先を細くする工夫。屏風はなにでできているか。
- 他にもどんなびょうぶの絵があるのか？はせがわとうはくさんの絵は他には、どんな絵があるのか、それとも他のびょうぶの絵があるのか？
- どのようなサイズの筆をつかっていたのか。どんなところでやっていたのか。どんな部屋でやっていたのか。など。もう調べてもあまりでてこないようなことを知りたいなと思いました。

(6年生)

◆ 分かったこと、感じたこと

- 初めて屏風という物を見て、最初ただの木を書いて、何が美しいのかな？と思いました。でもその後、光の種類によって見え方が変わることを知り、光によって変わってくる色づかいの感じ方が面白いな～と思いました。
- 絵が二つあるのに一つに1絵書いてそれを二まいにみせてるのが、とてもきれいだかったです。それをかさねてみたら、とってもきれいにみえたことも面白かったです。
- 光によって眠くなったり目が覚めたりと、色々感情が変わったことです。アロマとか、リラックス効果の物がなかった時代は、光(火)+屏風を見て眠りやすくなったのかなあとも考えました。
- のうたんがすごくて、見ていて楽しかった。色が白と黒しかないのに木だと分かった。もし家にあったら、冬の時に使いたいと思った。
- 昔の人が生活を良くするために作ったからその人達の思いの強さがこの屏風に表れているのだろうなと思った。
- 松以外にも下に山のようなものが描いてあったのが面白かったです。木によって色のこさが違って良く表現してあってすごいなと思いましたし、どの方向から見るかによって絵が変わって見えたのもすごかったです。
- あれだけでかい屏風を見たのははじめてだったので、とても大きくてびっくりしました。また、文化財や屏風についての話を聞いて、昔の人が使っていたものが今でもあることがすごいなと思いました。
- 屏風は色々な向きに変えられるので、その日の気分やふんいきに合わせて使うことが出来、便利だなと思いました。
- 左にあった屏風の右の所に山があり、山が白で、周りにうすく黒があったのですが、その山のうしろから太陽の光が見えているようだったので、日没の時か、日の出の時だと思いました。また、あの一つの絵で、色々な事が想像できて、自分の気分などにより思うことがちがうというのはとてもおもしろかったです。
- 屏風は、時代も変わりあまり見る機会がないものなので新鮮で楽しかったです。明かりの色によってさみしいふんいきや、おだやかなふんいき、朝のふんいきなど色々変わって面白かったです!! また、絵は1人1人感じ方や見方が違い、様々な考え方がありました。自分と全く違う意見も聞くことができて良かったです!!
- 近いところに濃く書かれているのがつやに見えました。黒に色をこめるのがすごいと思いました。
- かいてある絵は松の木とわかっているけれど絵の中にある松の木は1本1本それぞれの持ちょうを持っていて1本も同じ絵の木がなかったことです。また、友達と話していたら、私はがけに見えたものが友達にはたきや山に見えたと話していたのが面白かったです。人の感覚はそれぞれ違うからそれぞれ違う見方で楽しむこともできると思いました。

◆ もっと知りたいこと

- 他の時間帯に屏風を見てどのようにちがうかをみたいと思いました。
- 本物を見てみたいです。
- 今日の屏風を見て、他の屏風ももっと見てみたいなと思いました。屏風だけでなく、昔の日本人が使っていたものを見てみたいと思います。
- 作者が、何を想いながらこの絵をかいたのかが、とても興味がわいています。それによって自分が見て絵への想いと作者の想いをくらべるのもたのしそうだなあと思いました。次は本物を見るためにはくぶつかんに足を運びたいと思っています!!
- 日本の文化財についてくわしく知りたいです。

先生からのご意見・ご感想、参加者の反応など

「芸術作品を鑑賞する」という構えがなく、身近な伝統作品として鑑賞させていただけたことは、今後鑑賞する作品への興味につながると思います。児童も私も大変楽しませていただきました。

講師より

屏風を閉じた状態で部屋に入ってもらい、目の前で広げて、まずは屏風が生活の道具であったことを解説しました。続いて、当時の灯りを再現した照明のもとで、じっくりと全体を鑑賞してもらいました。白色の照明や、窓から差し込む自然光でもご覧いただきましたが、照明が変わるごとに「わーっ!!」という大きな歓声があがりました。さらに屏風に近づいて細部の描写もご覧いただき、新たに気づいた点や発見したことなどを発表してもらいました。照明ごとに印象が変化することを感じたり、描かれた当初の見方を追体験することで、屏風が、生活のなかにさまざまな美や彩りを添える存在であったことを実感いただけたかと思います。(高橋)

実施プログラム	5 プログラム 絵で読む平家物語
機関名	京都府立西城陽高等学校（京都府城陽市枇杷庄京縄手46-1）
日時（お貸出期間）	2021年6月10日（木）～6月24日（木）
実施場所	通常教室（校舎3階）
輸送方法	日本通運関東美術品支店 美術品専用車両による輸送、昇降口にて引き渡し（開梱・梱包などは先生による対応）
参加対象・人数	高校3年 総合的な探究の時間（43人程度）
お申し込みの目的・ねらい	総合的な探究の時間（日本史）で、文化財を守り伝える大切さをテーマに展開するため。また、そこから読み取れる平安末期の歴史について復習するため。
実施内容	当センターから事前に資料など一式を送付。実施内容は不明。
先生のご意見、ご感想など	予想以上にマニュアルが多く読むのが大変だった。電話でポイントだけ説明してほしい。授業には取り入れやすい内容で、生徒の反応も良かった。

実施プログラム	1 プログラム 自分だけの松林図屏風を作ってみよう！
機関名	平安女学院中学高等学校（京都府京都市上京区烏丸通下立売西入ル172-2）
日時（お貸出期間）	2021年7月9日（金）～7月20日（火）
実施場所	大学棟茶室（校舎3階）（保管場所：同じ）
輸送方法	日本通運関東美術品支店 美術品専用車両による輸送、玄関にて引き渡し（開梱・梱包などは先生による対応）
参加対象・人数	中学1年生～3年生 美術（205名）
お申し込みの目的・ねらい	（美術：専任の先生より）美術授業の中での鑑賞教育の一環として実施したい
実施内容	当センターから事前に送付したガイドおよび授業案を参考に、基本的な流れに沿って実施。別途スライドなどを用意して説明を加えた。
先生のご意見、ご感想など	スタンプは絵が苦手な生徒には非常に有効な手段だと再確認しました。中学1・2年生には渋い内容だったかもしれませんが、中学校3年生・高校生は自分で鑑賞する際も時間を長く取って見ていました。なかなか難しいですが、社会科・国語科とも連携して別のプログラムを実施してみたいと思いました。利用に際して、特に困ったことはありませんでした。



実施プログラム	5 プログラム 絵で読む平家物語
機関名	福井市立郷土歴史博物館（福井県福井市宝永3丁目12-1）
日時（お貸出期間）	2021年10月8日（金）～10月21日（木）
実施場所	名勝養浩館庭園内、旧御泉水屋敷の2室（保管場所：収蔵庫）
輸送方法	日本通運関東美術品支店 美術品専用車両による輸送、トラックヤード引き渡し（開梱・梱包などは学芸員による対応）
参加対象・人数	中学生以上 各回15名×4回 ワークショップ
お申し込みの目的・ねらい	R3秋季特別展『帰ってきた平家物語絵巻』の記念イベントとして複製品を使用したワークショップを開催し、観覧者の作品理解を深めるため。
実施内容	基本原稿などは事前に送付し、展覧会に合わせたワークショップ内容にアレンジの上実施。
準備に要した時間	資料の読み込み含め1か月程度



感じて、楽しむ松林図屏風

機関名	京都府立福知山高等学校・附属中学校（京都府福知山市宇土師650）
日時（お貸出期間）	2021年10月19日（火）～10月28日（木）
実施場所	LL教室（校舎3階）（保管場所：同じ）
輸送方法	日本通運関東美術品支店 美術品専用車両による輸送、昇降口にて引き渡し（開梱・梱包などは先生による対応）
参加対象・人数	中学1年～3年（1クラス×3学年 120人）、高校1年（6クラス 240人）、高校2・3年芸術選択（2講座 20人）、高校2・3年日本史選択（4講座 100人） 美術および総合的な探究の時間など
お申し込みの目的・ねらい	（美術：専任の先生より） 美術鑑賞、日本美術、文化財に興味関心を持たせ、博物館や美術館に行きたいと思うきっかけを作る。他教科の教員に美術鑑賞の良さを理解してもらう。
実施内容	当センターから事前送付したガイドおよび授業案を参考に、先生が作成した授業案で実施。
先生のご意見 ご感想など	生徒はとても良い反応で、感想文も熱心を書いておりました。昼休みに自由鑑賞の時間を設けましたが、昨年中3だった美術を選択していなかった生徒たちもたくさん見に来ました。過去に楽しく見た経験があると、また見たいと思うようになるのだなと実感しました。

… 教員研修、他 実施報告

● 教員研修

機関名	青森県総合学校教育センター（青森県青森市大字大矢沢野田80-2）
実施プログラム	プログラム④ 見て、感じて、楽しむ風神雷神・夏秋草図屏風 複製品貸出①② 「遮光器土偶」「遮光器土偶（前後分割）」
日時	2021年10月26日（火）13:00～16:30
参加対象・人数	青森県内の教員（小学校教員、中・高等学校の美術科担当教員）約10名程度
実施場所	青森県総合学校教育センター 産業教育研修室（3階）
講師	小島有紀子（文化財活用センター企画担当研究員）
輸送方法	日本通運関東美術品支店 美術品専用車両による輸送、使用場所まで搬入（開梱・梱包はぶんかつ職員による対応）
お申し込みの目的・ねらい（教員研修）	教員研修講座での活用。（研修の目標は、講義や演習を通して、見方や感じ方を広げたり深めたりする鑑賞の学習への理解を深め、鑑賞の授業の改善と充実につなげることを目指す、としている）10月26日（火）の研修でぶんかつアウトリーチプログラムの活用を希望。翌日27日（水）は音楽の鑑賞の研修だが、引き続き複製品を一部活用したい
実施までの流れ	新型コロナウイルス感染症の影響により、直前まで実施方法についての対応を協議した機関のひとつです。受付開始日に申し込みをいただき、遠方であったこともあり事務的なやり取りを含めメール並びに電話による打ち合わせを行ないました。4月から打ち合わせを開始、7月時点でオンライン実施に切り替えるかを検討しましたが、原寸の高精細複製品を目の前でみていただく必要があること、また8月で規制が緩やかになったこともあり現地機関での実施となりました。
当日のプログラム内容	午前是指導主事による「意味や価値をつくりだす鑑賞の学習」という内容の講義と演習が行われました。楽しく鑑賞ができる方法論や鑑賞で感じたことのアウプットの方法などについて8例ほど実施しており、GIGAスクールで使用しているタブレットを活用した事例も体験しました。午後にぶんかつが担当する「思考力、判断力、表現力等を育てる美術鑑賞の学び」を行いました。はじめに「ぶんかつアウトリーチプログラム」の概要を説明したあと、風神雷神/夏秋草図屏風の鑑賞を行い、固定概念の崩し方、問いかけの仕方を中心に演習を行ないました。また、院内学級・支援級用に開発したキットを体験いただきました。最後15分で、ハンズオンレプリカの遮光器土偶2種を使用し、青森から出土した文化財に触ることによって体感いただきました。専科の先生ばかりでなく、特別支援学校の先生なども参加されていたこともあり、様々な意見交換をすることができました。また、終了後に演習の内容をまとめ、使用したパワーポイントとともに、後日資料を参加者へ送付しました。
担当者のご意見、ご感想など	風神雷神図と夏秋草図屏風の両方を鑑賞しながら、裏側の図案を考えたり、シールで制作するキットは児童・生徒の実態に併せて活用できそうだと思います。実際の学校の生徒の実態と重ねながら、難しいと感じる内容もあるようでしたが、先生方にとって授業づくりの大きなヒントになったと思います。
参加者の感想（一部抜粋）	・ファシリテーターの心構えや言葉の遣い方など、参考になることがたくさんありました。・照明や角度によって見え方が違う、大きくかわるという体験ができて良かったです。自分自身の中でも考え方や見え方が変わるので、参加する人が違えばいろいろな意見や表現があつて当然だなと思いました。・私自身が感じたことを言語化することが得意ではないと思っているため、様々な手段で感じたことを表現する今回の内容は大変参考になりました。

●【実証実験】オンラインツールを使用したアウトリーチプログラム

機関名	三重県立四日市高等学校 (三重県四日市市富田4丁目1-43)
実施プログラム	プログラム① 自分だけの松林図屏風をつくってみよう! プログラム③ 見て、知って、楽しむ松林図屏風 改変対応
日時	2021年5月20日(木)、21日(金)
参加対象・人数	高校1年生 美術選択者 7クラス分 (参加合計108名)
実施場所	三重県立四日市高等学校美術室、文化財活用センター会議室
講師	小島有紀子・高橋真作(文化財活用センター企画担当研究員)
輸送方法	日本通運関東美術品支店 専用車両による輸送 (搬入・搬出:学校対応、開梱・梱包:日本通運関東美術品支店美術作業員)

お申し込みの目的・ねらい(美術:専任の先生より) 日本画を鑑賞し、日本美術の特徴を理解することで、今後の授業で実施予定の貝合わせの制作につなげたい

実施までの経緯 講師派遣を予定していましたが、予定していた日程において、東京都は緊急事態宣言、三重県はまん延防止等重点措置が適用されていたので、派遣なし、中止、実験的にオンラインで実施のいずれかを提案し、実験的にオンラインで実施することになりました。文部科学省から出ているガイドライン「新型コロナウイルス感染症等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言を踏まえた小学校、中学校及び高等学校等における新型コロナウイルス感染症への対応に関する留意事項について(通知)」の適用下でステージ3相当でしたので、本来であれば鑑賞の授業は難しいという判断になりますが、先生との協議の結果、発話制限あり(生徒同士の会話はしない)、生徒同士の密集禁止、キットの共有不可というルールで実施しました。プログラムに必要な複製品とキット一式は学校へ事前に輸送し、屏風到着後の展示はオンラインで先生に指示を出しながら実施予定でしたが、輸送をご担当くださった日本通運関東美術品支店の美術作業員の方が、開梱・展示まで実施くださいました。到着後に2度ほど打ち合わせを行ない、当日を迎えました。なお、東京国立博物館は休館措置を講じていました。

当日のプログラム はじめに授業の目標と内容を先生が説明、そのあとに鑑賞のパートに入ります。通常の方法とは異なり、目の前で屏風を広げることはできませんでしたので、展示した状態で授業をスタートし、照明は先生に操作いただきました。屏風が教室正面、モニターが右手側にありましたので、生徒さんに「屏風の方を向いてください、モニターの方を向いてください」など細かく誘導しながら進めました。文化財活用センターのiPadには生徒さん全員が映っているわけではなく、屏風がどのように見えているかの共有もできていない状態です。前半の鑑賞の問いは基本の流れをベースとし、挙手で意思を示せるような聞き方に変更、なぜそう思ったのか、などの部分については高校生ということもあり、自らに心の中で問いかけてみる形としました。そのうえで、先生の指名により代表の生徒さんが何名か意見を述べる、という方法を取りました。後半は感じたこと、考えたことのアウトプットを1. 制作で表現、2. 言葉で表現のいずれか、生徒さん自身が選択できるようにしました。そのあとが発表などの時間です。今回のオンラインの機材は、自由に向きなどを動かせるわけではありませんので、先生が進行状況に応じて、タブレットを動かしたり、発表する生徒さんをタブレット前に誘導くださったりなど、臨機応変に対応してくださいました。

使用機材 文化財活用センター側はiPadのみ、学校側は美術室にあるモニターとタブレットを使用し、タブレットをモニターにつなぎ、講師が大画面に映る様に投影。アプリケーションはgoogle meetsを使用し、学校側の方がインターネット接続の制限が大きいため、学校側で会議(URL)設定。

考察 実施した所感及び感想からの考察となりますが、研究員の解説を受けて見え方の変化があったかという問いについては108名中、108名があった、との回答、他の人の見え方の違いを体感して、自身の作品の感じ方は変わったかという問いについては108名中、107名があったと回答、なかった1名についても、いろいろな意見があることを知ることができたが、自分の見え方に変化はなかった、というものでした。また、そのほかの感想からは、「文化財に親しむ」というプログラムの目的を超えているようなことを感じている参加者が多く、鑑賞の授業で理解してほしい「自らに問いかけ考える力を養い、他者の意見を聞き・受容することによる多様性の理解」については伝わったと考えられます。鑑賞は複製品で行い、講師の解説のみをオンラインとしたパターンでしたが、やはりいくつかの課題はのこりました。参加者の表情などの把握が難しく、話をするにあたって空間の共有ができないこと、参加者全員が画角に入らない、実施場所全体が見えないなどもあります。また、後半部分の個人ワークの状況の把握方法や接続の安定性などについては、今後の課題と考えています。当該案件は、現地へ講師派遣を行った機関のアンケート結果とほぼ同様、もしくはそれ以上の成果を得ることができましたが、これは過去に2度こちらの学校でプログラムを実施しており先生とのコミュニケーションが取れていたこと、環境と状況をこちらが把握できていたこと、何よりも先生の指導力が高かったことが大きな理由であったと考えられ、初めての学校での実施では、オンラインを使用して同様の成果を得ることはやはり難しいと考えています。鑑賞を目的としたリアルタイム・コミュニケーション型でのオンラインの場合、講師の解説のみであれば条件によってはオンライン実施可能、ただし、複製品の輸送が大前提であり、画面越しに作品を見せる方法は現段階ではオンラインは適さない、と考えています。(小島)



● 学校向け複製品のお貸し出しについて

ぶんかつアウトリーチプログラムでは、文化財活用センターが行っている複製品の貸し出しとは別に、東京国立博物館所蔵の考古作品の原寸大樹脂製レプリカの学校向け貸し出しも行っています。複製品とともに10分程度の授業案と、基本的な作品情報を宅配便でお届けします。触っていただくことも可能です(室内での使用に限ります)。

※申し込み方法、期限、流れは【B】(講師派遣なし)と同じ流れです。2ページをご確認ください。

※往路は元払いで発送します。復路は同封する着払い伝票をご利用ください。

※ご利用後は、発送時に使用されていた資材で梱包し、利用期間内にご返送ください。

※授業案と作品情報はWEBサイトでも公開しています。

ぶんかつWEBサイト

トップページ「教育プログラムを利用したい」

↓
「ぶんかつアウトリーチプログラム」へアクセス



①重要文化財「遮光器土偶」
樹脂製レプリカ

大きさ、重量ともに原品に
合わせてあります。



②重要文化財「遮光器土偶(前後分割)」
樹脂製レプリカ

内側の指の跡(製作の跡)を触ることができます。
右利きの人が作ったことがわかる複製品です。



③重要文化財「みみずく土偶」
樹脂製レプリカ

大きさ、重量ともに原品に
合わせてあります。

アウトリーチ用の複製品貸し出しは2021年から開始しましたが、やはり屏風のインパクトが大きいようで、お申し込みは教員研修の1件にとどまりました。図画工作や美術の授業で扱いづらいことも申し込みが少ない要因の一つと考えられます。今後、各時代(縄文・弥生・古墳)を代表する文化財の複製品を作り、ひとつのまとまりとして実施できるように方向性を考えてゆく予定です。

おわりに

2020年度に引き続き2021年度も、緊急事態宣言が発令されていない限られた期間での実施となりました。校外学習が難しい状況で本プログラムの申し込みが増えたため、お申し込みくださった機関すべてをお受けすることができず、またお受けできた機関の半数を中止せざるを得ない状況でしたが、「申し込みの目的を達成できた」という回答を、講師を派遣した全機関から得ることができ、この状況下において実施を継続することの重要性を改めて感じた1年となりました。

学校教育の現場では校外学習が実施できなくとも、様々な体験ができるように試行錯誤が続いていますが、継続して文化財に親しむスキームを構築するには、義務教育課程における鑑賞の授業の実施、しかも先生による継続した実践が非常に重要です。鑑賞の授業は、日本美術教育学会の2014年度・2015年度の調査によると、重要であるとしている学校が90%以上であるにもかかわらず、「授業時数が少なく鑑賞に充てる時間がとれない」「近くに美術館がない」と回答した学校は50%を超え、「提示する資料が乏しい」との回答は60%を超える状況です。さらに、複数回の教員研修を通じてわかったことは「正解がないものを教えることが苦手・または怖い」と感じている先生が多いということです。

人の手から手へ渡され、受け継がれてきた文化財を100年後、1000年後へ受け継いでゆくための小さな活動のひとつとして本プログラムを開発しましたが、講師派遣型で社会の要請すべてに応えることは現実的には不可能であり、先生方のみで実施できる形に変えてゆく必要があります。本プログラムは、もちろん講師が現地に行って実施することを想定はしていますが、何のために鑑賞を行うか、その本質的な部分をご理解いただくためのプログラムとして、先生方への参考資料を提供できるよう方向性を検討しています。その第一弾が、基本的なスクリプト案と実施ガイドの公開です。各プログラムに対応するテキストとして、それぞれのプログラムのスクリプト案および実施ガイドをWEBサイトに公開(ただし、基本スクリプトはプログラム③の平家物語を除く)しましたが、基本となる考え方はどのような作品を対象としても、例えば先生方が選んだ教材や作品を使用しても応用できるように構築しています。また、2022年度には、撮影可能な学校に協力を依頼して、文化財活用センター講師が実施する本プログラムの記録動画の公表も目標としています。そういった資料やコンテンツを継続して増やしてゆくことにより、学校教育の現場で、鑑賞の授業が実施しやすい単元となるようになってゆけばと考えています。

一方で本年度も実施はできませんでしたが、病院内の学級やイベント、特別支援学校などでの実施依頼もあります。そのような場合は、同じ作品を使用したとしても、プログラムの本質となる部分や実施方法を各機関に応じて変更する必要があるため、講師を派遣して実施できるように別のスキームを構築していく必要性も感じています。2022年度は社会の制約も緩やかになることが予想されますので、実施を継続するとともに、4年目を迎える本プログラムについて今後の方向性を検証してゆきたいと考えています。

2021年度にプログラムを受けた皆様にとって、この体験が「文化財に親しみ、自らに問いかけ、考える力を養い、自分たちの地域や身の回りにある、人の手から手へ受け継がれてきた文化財を守り受け継いでいく力を育む」ことの第一歩になることを願っています。

(文化財活用センター 企画担当研究員 小島有紀子)

2021年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書

発行日 令和5(2023)年2月28日
編集・発行 独立行政法人国立文化財機構 文化財活用センター、東京国立博物館
デザイン 平ノ内明子
印刷 大協印刷株式会社

※★の複製品を使用したプログラムでは、綴プロジェクト(主催:京都文化協会/共催:キヤノン株式会社)で制作された高精細複製品を使用しました。
※本プログラムはキヤノン株式会社と国立文化財機構による「文化財の高精細複製品の制作と活用に関する共同研究プロジェクト」の一環として実施しています。